

Android プログラミングマニュアル

V 2.8.6J 2021-9-6

目 次

1. ScanService / USS 通信	6
1.1. Scan2Key を有効または無効	7
1.2 Scan2Key 出力方法	7
1.3 ソフトウェアスキャンのトリガ	7
1.4 データ受信手順の初期化	7
1.5 スキャンしたデータを受信	7
1.6 シンボルデータを受信	8
1.7 スキャナ設定を保存	8
1.8 スキャナ設定の読み込み	8
1.9 スキャンサービスを閉じる	9
1.10 スキャンサービスを有効にする	9
1.11 プリアンブルをセット	9
1.12 ポストアンブルをセット	9
1.13 ターミネータをセット	9
1.14 バイブレーションをセット	9
1.15 サウンドをセット	9
1.16 サウンド周波数をセット	9
1.17 サウンド時間をセット	10
1.18 EAN128 フィールドセパレータをセット	10
1.19 文字間遅延をセット	10
1.20 タイムアウト保持時間をセット	10
1.21 文字間遅延	10
1.22 シェークスキャンをセット	11
1.23 すべてのシンボルを有効にする	11
1.24 すべてのシンボルを無効にする	11
1.25 NFC 読み取りを有効/無効	11
1.26 NFC 出力順序を変更	11
1.27 NFC イグノアレントをセット	12
1.28 パラメータコマンドを送信	12
1.29 デバイスオプションをセット	35
1.30 キーボード出力を有効/無効にする	38
1.31 スキャンしたデータとデータタイプを受信	38
1.32 プログラム例	38
2. Scan2Key を使用するヒント	39
2.1. バーコードシンボルを知りたい	39
2.2. 受信データがバーコードデータより長い	39
2.3. HTML5 を通してバーコードスキャンを有効/無効にする	39
3. 簡易なデータ編集	40
3.1. データ編集を有効にする	40
3.2. rule.txt	40
4. SOTI API	35
4.1. 工場出荷リセット無効	35
4.2. USB メディアプレイヤー無効	35
4.3. OS アップグレードをブロック	36
4.4. 全 4 キー無効	36
4.5. アプリケーションのアンインストールを防止する	36
4.6. アカウント追加無効	37
4.7. SMS 着信無効	37
4.8. SMS 送信無効	37

4.9.	MMS 着信無効	38
4.10.	MMS 送信無効	38
5.	デバイスマネージメントインターフェース(DMI).....	39
5.1.	メモリ、ストレージ、および CPU 関係の関数	39
5.1.1.	内蔵されている内部メモリの容量を得る.....	39
5.1.2.	内蔵されている内部メモリの使用可能な容量を得る	39
5.1.3.	拡張メモリの合計容量を得る.....	39
5.1.4.	使用可能な拡張メモリの合計容量を得る.....	39
5.1.5.	記憶容量の合計を得る.....	40
5.1.6.	使用可能な記憶容量の合計を得る	40
5.1.7.	CPU 負荷を得る	40
5.2	バッテリー関係の関数	40
5.2.1	バッテリーレベルを得る	40
5.2.2	バッテリー充電状態を得る	40
5.2.3	バッテリー温度を得る	41
5.3	ディスプレイとタッチパネル関連の関数.....	41
5.3.1	ディスプレイのピクセル数を得る	41
5.3.2	ディスプレイの方向を得る	41
5.4	カメラ関係の関数	41
5.4.1	カメラの有無を得る	41
5.5	GPS 関係の関数	42
5.5.1	GPS がオープンされていることを得る	42
5.5.2	GPS 位置を得る	42
5.6	Bluetooth 関係の関数.....	42
5.6.1	サポートされている Bluetooth プロファイルを得る	42
5.6.2	Bluetooth 接続を得る	42
5.6.3	Bluetooth バージョンを得る.....	43
5.7	無線 LAN 関連の関数	43
5.7.1	関連づけられた AP を得る	43
5.7.2	WLAN 接続を得る	43
5.7.3	WLAN 信号を得る	43
5.8	WWAN 関係の関数.....	43
5.8.1	アクティブなネットワークベアラを得る	43
5.8.2	サポートされるネットワークベアラを得る	44
5.8.3	WWAN 信号を得る	44
5.9	ハードウェア情報関係の関数	44
5.9.1	ハードウェアベンダを得る	44
5.9.2	ハードウェアモデルを得る	44
5.9.3	シリアル番号を得る	45
5.10	OS 情報関係の関数	45
5.10.1	OS 名を得る.....	45
5.10.2	OS バージョンを得る.....	45

5.10.3	ブートローダーバージョンを得る	45
5.11	IP アドレス関係の関数	45
5.11.1	WLAN IP アドレスを得る	45
5.11.2	WWAN IP アドレスを得る	46
5.12	トリガイベント関係の関数	46
5.12.1	トリガルール構造	46
5.12.2	使用可能な内蔵メモリサイズイベントトリガ	46
5.12.3	使用可能な拡張メモリサイズイベントのトリガ	46
5.12.4	使用可能なストレージサイズイベントのトリガ	47
5.12.5	CPU 負荷イベントのトリガ	47
5.12.6	バッテリー温度イベントのトリガ	47
5.12.7	バッテリーレベルイベントのトリガ	47
5.12.8	リブレースサービス登録	48
5.12.9	リブレースサービス登録解除	48
5.13	Ethernet 関係の関数	48
5.13.1	Ethernet IP アドレスを得る	48
5.13.2	Ethernet マスクを得る	48
5.13.3	Ethernet ゲートウェイ IP アドレスを得る	49
5.13.4	Ethernet DNS サーバーを得る	49
5.13.5	Ethernet MAC アドレスを得る	49
6	Unitech API	50
6.1	Bluetooth を有効/無効にする	50
6.2	Is Root(ルートかどうか)	50
6.3	インストール	50
6.4	アップデート	50
6.5	アンインストール	51
6.6	ワイヤレス接続	51
6.7	ワイヤレス切断	51
6.8	ワイヤレス IP アドレスを得る	51
6.9	ワイヤレス SSID を得る	52
6.10	セキュリティレベルを得る	52
6.11	プリシェアードキーを得る	52
6.12	アプリケーションデータをクリア	52
6.13	非マーケットアプリケーションインストールの有効/無効	53
6.14	OTA OS アップデート有効/無効	53
6.15	OTA OS アップデート自動スタート	53
6.16	アプリケーション有効/無効	53
6.17	NFC 有効/無効	54
6.18	USB デバッグ有効/無効	54
6.19	OS パッケージインストール	54
6.20	リブート	54
6.21	GPS 有効/無効	55
6.22	工場出荷リセット	55
6.23	WiFi 有効/無効	55
6.24	機内モード有効/無効	55
6.25	システム時刻をセット	56

6.26	認証をインストール	56
6.27	パスワードを得る	56
6.28	パスワードをセット	56
6.29	アイデンティティを得る	57
6.30	アイデンティティをセットする	57
6.31	匿名のアイデンティティを得る	57
6.32	匿名のアイデンティティをセットする	57
6.33	フェーズ 2 メソッドを得る	58
6.34	フェーズ 2 メソッドをセットする	58
6.35	クライアント認証を得る	58
6.36	クライアント認証をセットする	58
6.37	CA 認証を得る	59
6.38	CA 認証をセットする	59
6.39	EAP メソッドを得る	59
6.40	EAP メソッドをセットする	59
6.41	サブジェクトマッチを得る	60
6.42	サブジェクトマッチをセットする	60
6.43	許可されたキー管理をセットする	60
6.44	許可されたプロトコルをセットする	60
6.45	許可されたペアワイズ暗号をセットする	61
6.46	許可されたグループ暗号をセットする	61
6.47	WEP Tx キーインデックスを得る	61
6.48	WEP Tx キーインデックスをセットする	61
6.49	WEP キーを得る	62
6.50	WEP キーをセットする	62
7	Unitech バッテリー API	63
7.1	健康状態	63
7.2	サイクルカウント	63
7.3	シリアル番号	64
7.4	製造日	64
8	その他の API	65
8.1	シリアル番号	65
9	Scanservice の追加情報	66
9.1	コード ID テーブル	66
9.2	コマンドテーブル	69
9.3	コマンド情報	74
	更新履歴	111

1. ScanService / USS 通信

すべての USI クロスアプリケーション通信は、USI とユーザアプリケーション間でブロードキャストインテントにより行われます。

ScanServer V1.95 以上 (OS ビルト 3230 以上に組み込まれた)。

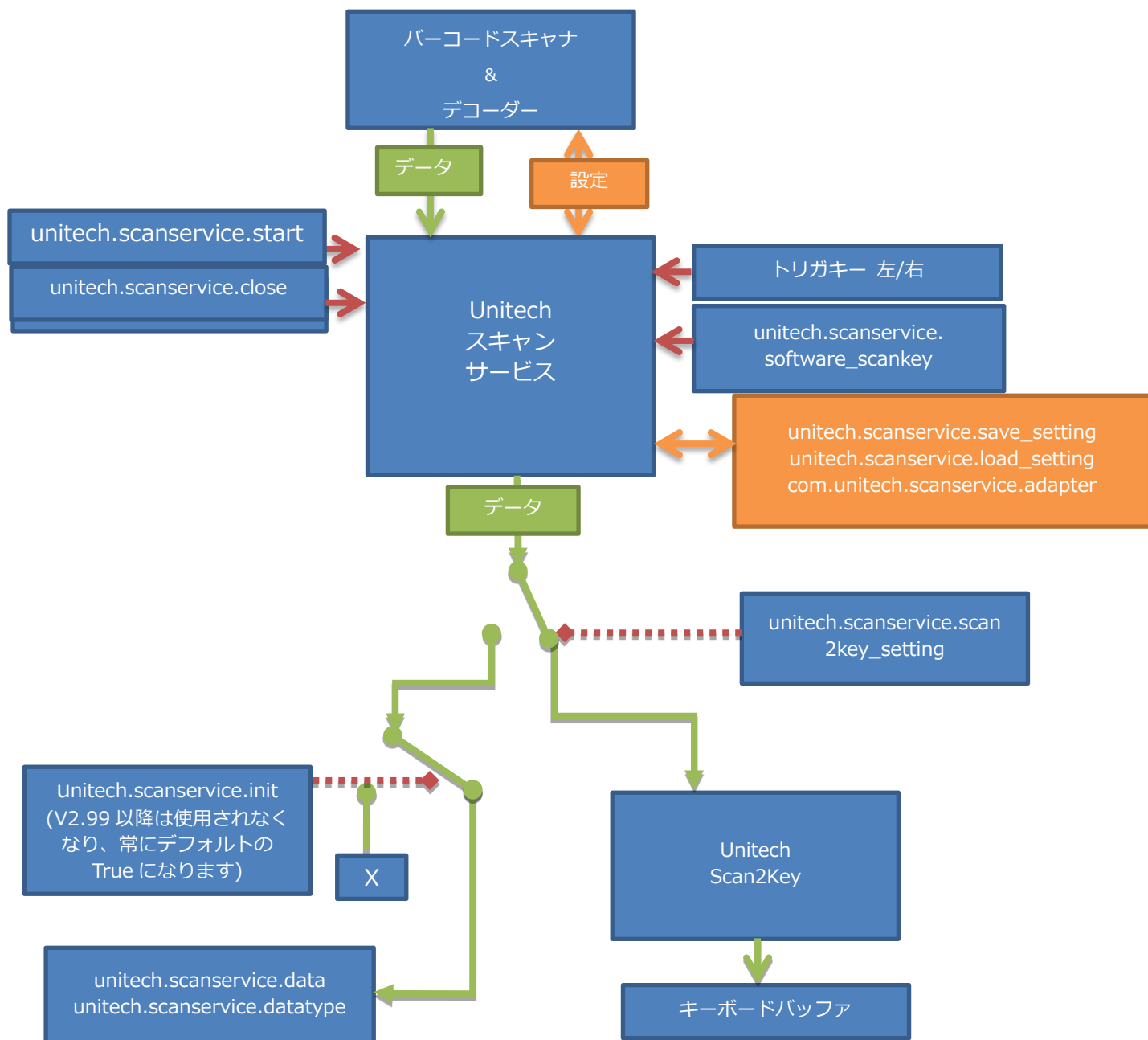
内部 Unitech Scan Service のインテントアクションは"unitech.scanservice.xxx"であり、外部 Unitech Scan Service のインテントアクションは"unitech.scanservice.external.xxx"です。

たとえば、unitech スキャンサービスを開始する場合は以下の通りです：

内部 USS の開始インテントアクション：unitech.scanservice.start

外部 USS の開始インテントアクション：unitech.scanservice.external.start

以下の図は、スキャナの構成を示しています。



1.1. Scan2Key を有効または無効

説明: キーボードエミュレーション機能をサポートする Scan2Key を有効または無効にします。

アクション: "unitech.scanservice.scan2key_setting"

拡張データ: Name: "scan2key"
Type: Boolean (true=ON, false=OFF)

1.2 Scan2Key 出力方法

説明: Scan2Key 使用時の出力方法を選択します。

アクション: "unitech.scanservice.scan2key_outputmethod "

拡張データ: Name: "outputmethod"
Type: int

注: 方法

- 0 キーエミュレーション
- 1 コピー/ペースト

1.3 ソフトウェアスキャンのトリガ

説明: スキャンのスタートまたはストップ

アクション: "unitech.scanservice.software_scankey"

拡張データ: Name: "scan"
Type: Boolean (true=スキャンスタート, false=スキャンストップ)

ノート: サンプルコード

http://a2401.s3.amazonaws.com/cs/app/USS/Software_Scankey_sample_code.zip

1.4 データ受信手順の初期化

説明: データ受信手順を初期化します。

アクション: "unitech.scanservice.init"

拡張データ: Name: "enable"
Type: Boolean (true=ON, false=OFF)

注: データ受信フロー:

Scan2Key	Init	スキャントリガ	出力
ON	ON	動作中	キーボードバッファ
ON	OFF	動作中	キーボードバッファ
OFF	ON	動作中	インテント
OFF	OFF	動作していない	インテント(他の方法でエンジンを始動する)

PS. V2.99 から、トリガは常に HW トリガ OS で動作するため、このインテントは効果がありません。

1.5 スキャンしたデータを受信

説明: スキャナからインテントを経由してデータを受信します。

アクション: "unitech.scanservice.data"

拡張データ: Name: "text"
Type: String

ノート: お客様は、インテントアクションと拡張データ名を変更できます。[セクション 1.29](#) をご覧ください。

アクション: "unitech.scanservice.datalength"

拡張データ: Name: "text"

Type: int

アクション: "unitech.scanservice.databyte"

拡張データ: Name: "text"

Type: byte[]

アクション: "unitech.scanservice.databytelength"

拡張データ: Name: "text"

Type: int

ノート: データをインテントで送信するには、scan2key を false にセットする必要があります。
それ以外の場合は、データはキーボードバッファに送られます。

"databyte"はスキャナからの変更されていない生データを返します。これは文字列 "data" とは異なる場合があります。したがって、正しい長さを得るために databytelength を使用する必要があります。

USS は、以下のシーケンスでインテントを送信します。

unitech.scanservice.data (バーコードデータ)

unitech.scanservice.databytelength (バーコード長)

unitech.scanservice.datatype (シンボルコードタイプ)

1.6 シンボルデータを受信

説明: スキャンしたバーコードのシンボルのタイプを受信します。 [セクション 3.1](#) もご覧ください。

アクション: "unitech.scanservice.datatype"

拡張データ: Name: "text"

Type: integer

ノート: シンボルデータを、インテントを通して送信するには scan2key を false にセットする必要があります。

1.7 スキャナ設定を保存

説明: スキャナ設定を保存します。

アクション: "unitech.scanservice.save_setting"

拡張データ: Name: "Path"

Type: String

ノート: ファイル名は固定です: USISETTING.CFG

標準の "Path" は "Path" が空のままの場合 /sdcard/ です。パスがあることを確認して下さい。

1.8 スキャナ設定の読み込み

説明: スキャナ設定を読み込みます。

アクション: "unitech.scanservice.load_setting"

拡張データ: Name: "Path"

Type: String

ノート: ファイル名は固定です: USISETTING.CFG.

標準の "Path" は "Path" が空のままの場合 /sdcard/ です。パスがあることを確認して下さい。

1.9 スキャンサービスを閉じる

説明: スキャンサービスを閉じます。

アクション: "unitech.scanservice.close"

拡張データ: Name: "close"
Type: Boolean

1.10 スキャンサービスを有効にする

説明: スキャンサービスを開始します。

アクション: "unitech.scanservice.start"

1.11 プリアンブルをセット

ScanServer V2.05 以降

説明: 出力データのプリアンブルをセットします。

アクション: "unitech.scanservice.preamble"

拡張データ: Name: "preamble"
Type: String

1.12 ポストアンブルをセット

ScanServer V2.05 以降

説明: 出力データのポストアンブルをセットします。

アクション: "unitech.scanservice.postamble"

拡張データ: Name: "postamble"
Type: String

1.13 ターミネータをセット

ScanServer V2.05 以降

説明: 出力データのターミネータをセットします。

アクション: "unitech.scanservice.terminator"

拡張データ: Name: "terminator"
Type: String

1.14 バイブレーションをセット

ScanServer V2.05 以降

説明: 読み取り成功時のバイブレーションをオンまたはオフにセットします。

アクション: "unitech.scanservice.vibration"

拡張データ: Name: "vibration"
Type: Boolean (true=ON, false=OFF)

1.15 サウンドをセット

ScanServer V2.05 以降

説明: 読み取り成功時の音をオンまたはオフにセットします。

アクション: "unitech.scanservice.sound"

拡張データ: Name: "sound"
Type: Boolean (true=ON, false=OFF)

1.16 サウンド周波数をセット

説明: 読み取り成功時のサウンド周波数をセットします。

アクション: “unitech.scanservice.frequency”

拡張データ: Name: “frequency”

Type: String

0: 低音

1: 通常

2: 高音

ノート: PA760 のみサポートしています。

1.17 サウンド時間をセット

説明: 読取り成功時のサウンドの長さをセットします。

Action: “unitech.scanservice.duration”

Extended data: Name: “duration”

Type: String

0: 短

1: 通常

2: 長

ノート: PA760 のみサポートしています。

1.18 EAN128 フィールドセパレータをセット

ScanServer V2.05 以降

説明: EAN128 フィールドセパレータをセットします。

アクション: “unitech.scanservice.fieldseparator”

拡張データ: Name: “fieldseparator”

Type: String

1.19 文字間遅延をセット

ScanServer V2.05 以降

説明: 文字間遅延をセットします(ミリ秒)

アクション: “unitech.scanservice.interchar_delay”

拡張データ: Name: “intercharDelay”

Type: Integer

1.20 タイムアウト保持時間をセット

ScanServer V2.07 以降

PA700 Android 4.1 starts 3800 または Android 4.3 starts 1019 では動作しません

説明: トリガが離れた後、エンジンが動作を続けるタイムアウト時間を秒でセットします。

アクション: “unitech.scanservice.keepsan”

拡張データ: Name: “keepsan”

Type: Integer

ノート: トリガを離れた後すぐにエンジンをオフにしたい場合、0 にセットします。そして最大値は 10 未満です。

1.21 文字間遅延

Scan Server 2.25 以降

説明: 文字間遅延をセットします(ミリ秒)

アクション: “unitech.scanservice.interchar_delay”

拡張データ: Name: “intercharDelay”

Type: Integer

ノート: 拡張データは不要です。

1.22 シェークスキャンをセット

ScanServer V2.38 以降

1D エンジンのみサポートします

説明: シェークスキャンを有効または無効にします。シェークスキャンは、デバイスを振ってスキャン光をトリガすることが出来ます。

アクション: “unitech.scanservice.shakescan”

拡張データ: Name: “enable”

Type: Boolean (true=ON, false= OFF)

1.23 すべてのシンボルを有効にする

ScanServer V2.52 以降

説明: すべてのシンボルを有効にします。Trioptic Code 39, Composite CC-C, Composite CC-A/B, および Composite TLC-39 を除きます。

アクション: “unitech.scanservice.enable_all”

1.24 すべてのシンボルを無効にする

Scan Server 2.28 以降

説明: すべてのシンボルを無効にします

アクション: “unitech.scanservice.disable_all”

1.25 NFC 読み取りを有効/無効

Scan Server 2.49 以降

説明: NFC 読み取りを有効/無効にします。

アクション: “unitech.scanservice.nfcenable”

拡張データ: Name: “nfcenable”

Type: Boolean (true=ON, false=OFF)

1.26 NFC 出力順序を変更

Scan Server 2.49 以降

説明: NFC データが送出される順序を変更します。

アクション: “unitech.scanservice.nfcorder”

拡張データ: Name: “nfcorder”

Type: Boolean (true=通常, false=逆)

1.27 NFC イグノアレートをセット

Scan Server V2.49 以降

説明: 各 NFC 読み取り出力間の時間をセットします。

アクション: "unitech.scanservice.nfcignorerate"

拡張データ: Name: "nfcignorerate"
 Type: Integer

1.28 パラメータコマンドを送信

ScanServer V2.28 以降

説明: エンジンにパラメータコマンドを送ります。

アクション: "unitech.scanservice.setting "

拡張データ: Name: "INDEX"
 Type: Integer
 Name: "EXTEND"
 Type: Boolean
 Name: "EXT"
 Type: Byte
 Name: "NUM"
 Type: Byte
 Name: "VALUE"
 Type: Byte

ノート: PA700 1D エンジン INDEX = 1; 2D エンジン INDEX = 2.

デバイスサポートパラメータ番号とデフォルト値の詳細については、5.3 章をご覧ください。

パラメータ番号が 0xEF より大きい場合、EXTEND を true にセットとします; それ以外は EXTEND を false にセットします。

EXTEND が true の場合、EXT を拡張パラメータコードにセットします。そして、NUM を param_num オフセットにセットします。

EXTEND が false の場合、NUM を param_num にセットします。

パラメータ番号 F0h(+256)、F1h(+512)、F2h(+768)は、その番号が 256 以上のパラメータにアクセスします。例えば、256-511 の範囲の最初のパラメータにアクセスするには、F0h と 00h を使用します。

パラメータデータフォーマット

パラメータ番号	データフォーマット
0 から EFh	<parm_num><value>
F0h, F1h, F2h	<extended parameter code><param_num offset><value>

各パラメータについては、以下の JSON データをチェックしてください。

[詳細については、9.3 を参照して下さい。](#)

PA720 2D エンジンは、値に対してパラメータを使用します。パラメータが 256 より大きければ、EXTEND は 0 から始まり、256 毎に 1 つずつ増加します。(例 ISSN EAN がパラメータ 617 の場合、EXTEND は 0x2、そして値は 0x69 となります)。

他のデバイスについては、以下の例をご覧ください。

“Parameter” は、パラメータの読み取り可能な名前です。

“Hex” は、<param_num> または <extended parameter code><param_num offset>です。

<value>を得るには、“Type”をチェックします。

Type が 1 なら、このパラメータは enable(1)/disable(0) または true(1)/false(0) オプションのみを持っていることを意味しています。

Type が 2 なら、このパラメータは複数のオプションを持ち、そしてその値は“Tag”にリストされていることを意味しています。

Type が 3 なら、このパラメータは範囲のオプションを持っており、その範囲の値は “Min” と “Max” の間にあることを意味しています。

Type が 4 なら、このパラメータは範囲が “Min” と “Max” にある整数値オプションを持っていることを意味しています。

例:

```
// Enable/disable UPC-A
```

```
public static final String SETTING = "unitech.scanservice.setting";
```

```
Bundle bundle = new Bundle();
```

```
bundle.putInt("INDEX", 1); // 1 = 1D engine, 2 = 2D engine
```

```
bundle.putBoolean("EXTEND", false); // false if NUM <= 0xEF, otherwise true
```

```
bundle.putByte("NUM", (byte) 0x01); // <param_num> or <param_num offset>, from "Hex" value
```

```
bundle.putByte("VALUE", (byte) 1); // 1 = Enable, 0 = Disable
```

```
Intent mIntent = new Intent().setAction(SETTING).putExtras(bundle);
```

```
sendBroadcast(mIntent);
```

例 2

```
// Set UpperLeftWindowX to 550
```

```
public static final String SETTING = "unitech.scanservice.setting";
```

```
Bundle bundle = new Bundle();
```

```
bundle.putInt("TYPE", 4); // Type 4 = integer value
```

```
bundle.putInt("INDEX", 2); // 1 = 1D engine, 2 = 2D engine
```

```
bundle.putBoolean("EXTEND", true); // false if NUM <= 0xEF, otherwise true
```

```
bundle.putByte("EXT", (byte) 0x0B); // <param_num> or <param_num offset>,  
from "Hex" value
```

```
bundle.putByte("NUM", (byte) 0xD1); // <param_num> or <param_num offset>,  
from "Hex" value
```

```
bundle.putInt("VALUE", 550); // Set "VALUE" as integer extra
```

```
Intent mIntent = new Intent().setAction(SETTING).putExtras(bundle);
```

```
sendBroadcast(mIntent);
```

パラメータの概要:

```
<string-array name="UPC_EAN">
  <item>{
    "Parameter":"UPC-A",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x01
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"UPC-E",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x02
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"UPC-E1",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x0C
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"EAN-8",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x04
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"EAN-13",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x03
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"","Bookland EAN",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x53
  }</item>
  <item>{
```

```

    "Parameter": "Bookland ISBN Format",
    "Type": 2,
    "Min": 0,
    "Max": 1,
    "Hex": 0xF140,
    "Tag": {
        "0": "Bookland ISBN-10",
        "1": "Bookland ISBN-13"
    }
}</item>
<item>{
    "Parameter": "Decode UPC/EAN Supplementals",
    "Type": 2,
    "Min": 0,
    "Max": 8,
    "Hex": 0x10,
    "Tag": {
        "0": "Ignore UPC/EAN With Supplementals",
        "1": "Decode UPC/EAN With Supplementals",
        "2": "Autodiscriminate UPC/EAN Supplementals",
        "3": "Enable Smart Supplemental Mode",
        "4": "Enable 378/379 Supplemental Mode",
        "5": "Enable 978/979 Supplemental Mode",
        "6": "Enable 414/419/434/439 Supplemental Mode",
        "7": "Enable 977 Supplemental Mode",
        "8": "Enable 491 Supplemental Mode"
    }
}</item>
<item>{
    "Parameter": "Decocde UPC/EAN Supplemental Reddundacy",
    "Type": 3,
    "Min": 2,
    "Max": 20,
    "Hex": 0x50
}</item>
<item>{
    "Parameter": "UPC/EAN/JAN Supplemental AIM ID Format",
    "Type": 2,
    "Min": 0,
    "Max": 1,
    "Hex": 0xF1A0,
    "Tag": {
        "0": "Separate",
        "1": "Combined"
    }
}</item>
<item>{
    "Parameter": "Transmit UPC-A Check Digit",

```

```

        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x28
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Transmit UPC-E Check Digit",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x29
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Transmit UPC-E1 Check Digit",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x2A
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"UPC-A Preamble",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":2,
        "Hex":0x22,
        "Tag":{
            "0":"No Preamble",
            "1":"System Character",
            "2":"System Character and Country Code"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"UPC-E Preamble",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":2,
        "Hex":0x23,
        "Tag":{
            "0":"No Preamble",
            "1":"System Character",
            "2":"System Character and Country Code"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"UPC-E1 Preamble",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":2,

```



```

        "Hex":0x24,
        "Tag":{
            "0":"No Preamble",
            "1":"System Character",
            "2":"System Character and Country Code"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Convert UPC-E to A",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x25
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Convert UPC-E1 to A",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x26
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"EAN-8 Zero Extend",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x27
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"UPC/EAN Security Level",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":3,
        "Hex":0x4D,
        "Tag":{
            "0":"UPC/EAN Security Level 0",
            "1":"UPC/EAN Security Level 1",
            "2":"UPC/EAN Security Level 2",
            "3":"UPC/EAN Security Level 3"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"UCC Coupon Extended Code",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x55
    }</item>

```

```

<item>{
  "Parameter":"Coupon Report",
  "Type":2,
  "Min":0,
  "Max":2,
  "Hex":0xF1DA,
  "Tag":{
    "0":"Old Coupon Symbols",
    "1":"New Coupon Symbols",
    "2":"Both Coupon Format"
  }
}</item>
<item>{
  "Parameter":"ISSN EAN",
  "Type":1,
  "Min":0,
  "Max":1,
  "Hex":0xF169
}</item>
</string-array>

<string-array name="Code_128">
  <item>{
    "Parameter":"Code 128",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x08
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"Length L1",
    "Type":3,
    "Min":1,
    "Max":55,
    "Hex":0xD1
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"Length L2",
    "Type":3,
    "Min":1,
    "Max":55,
    "Hex":0xD2
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"GS1-128",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,

```

```

        "Hex":0x0E
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"ISBT 128",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x54
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"ISBT Concatenation",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":2,
        "Hex":0xF141,
        "Tag":{
            "0":"Disable ISBT Concatenation",
            "1":"Enable ISBT Concatenation",
            "2":"Autodiscriminate ISBT Concatenation"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Check ISBT Table",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF142
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"ISBT Concatenation Redundancy",
        "Type":3,
        "Min":2,
        "Max":20,
        "Hex":0xDF
    }</item>
</string-array>

<string-array name="Code_39">
    <item>{
        "Parameter":"Code 39",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x00
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Trioptic Code 39",
        "Type":1,

```

```

        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x0D
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Convert Code 39 to Code 32",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x56
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"'Code 32 Prefix'",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xE7
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"'Length L1'",
        "Type":3,
        "Min":0,
        "Max":48,
        "Hex":0x12
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"'Length L2'",
        "Type":3,
        "Min":0,
        "Max":48,
        "Hex":0x13
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"'Check Digit Verification'",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x30
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"'Transmit Code 39 Check Digit'",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x2B
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"'Code 39 Full ASCII'",

```

```

        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x11
    }</item>
</string-array>

<string-array name="Code_93">
    <item>{
        "Parameter":"Code 93",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x09
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Length L1",
        "Type":3,
        "Min":1,
        "Max":48,
        "Hex":0x1A
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Length L2",
        "Type":3,
        "Min":1,
        "Max":48,
        "Hex":0x1B
    }</item>
</string-array>

<string-array name="Code_11">
    <item>{
        "Parameter":"Code 11",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x0A
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Length L1",
        "Type":3,
        "Min":1,
        "Max":48,
        "Hex":0x1C
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Length L2",

```

```

        "Type":3,
        "Min":1,
        "Max":48,
        "Hex":0x1D
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Check Digit Verification",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":2,
        "Hex":0x34,
        "Tag":{
            "0":"Disable",
            "1":"One Check Digit",
            "2":"Two Check Digit"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Transmit Code 11 Check Digits",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x2F
    }</item>
</string-array>

<string-array name="I2of5">
    <item>{
        "Parameter":"Interleaved 2 of 5",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x06
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Length L1",
        "Type":3,
        "Min":2,
        "Max":55,
        "Hex":0x16
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Length L2",
        "Type":3,
        "Min":2,
        "Max":55,
        "Hex":0x17
    }</item>

```

```

<item>{
  "Parameter":"Check Digit Verification",
  "Type":2,
  "Min":0,
  "Max":2,
  "Hex":0x31,
  "Tag":{
    "0":"Disable",
    "1":"USS Check Digit",
    "2":"OPCC Check Digit"
  }
}</item>
<item>{
  "Parameter":"Transmit I 2 of 5 Check Digits",
  "Type":1,
  "Min":0,
  "Max":1,
  "Hex":0x2C
}</item>
<item>{
  "Parameter":"Convert I 2 of 5 to EAN-13",
  "Type":1,
  "Min":0,
  "Max":1,
  "Hex":0x52
}</item>
</string-array>

<string-array name="D2of5">
  <item>{
    "Parameter":"Discrete 2 of 5",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x05
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"Length L1",
    "Type":3,
    "Min":1,
    "Max":48,
    "Hex":0x14
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"Length L2",
    "Type":3,
    "Min":1,
    "Max":48,

```

```

        "Hex":0x15
    }</item>
</string-array>

<string-array name="C2of5">
    <item>{
        "Parameter":"Chinese 2 of 5",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF098
    }</item>
</string-array>

<string-array name="M2of5">
    <item>{
        "Parameter":"Matrix 2 of 5",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF16A
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Length L1",
        "Type":3,
        "Min":1,
        "Max":48,
        "Hex":0xF16B
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Length L2",
        "Type":3,
        "Min":1,
        "Max":48,
        "Hex":0xF16C
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Matrix 2 of 5 Redundancy",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF16D
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Matrix 2 of 5 Check Digit",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,

```



```

        "Hex":0xF16E
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Transmit Matrix 2 of 5 Check Digit",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF16F
    }</item>
</string-array>

<string-array name="Codabar">
    <item>{
        "Parameter":"Codabar",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x07
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Length L1",
        "Type":3,
        "Min":3,
        "Max":48,
        "Hex":0x18
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Length L2",
        "Type":3,
        "Min":3,
        "Max":48,
        "Hex":0x19
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"CLSI Editing",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x36
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"NOTIS Editing",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x37
    }</item>
</string-array>

```

```

<string-array name="MSI">
  <item>{
    "Parameter":"MSI",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x0B
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"Length L1",
    "Type":3,
    "Min":1,
    "Max":16,
    "Hex":0x1E
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"Length L2",
    "Type":3,
    "Min":1,
    "Max":16,
    "Hex":0x1F
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"MSI Check Digit",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x32
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"Transmit MSI Check Digit",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x2E
  }</item>
  <item>{
    "Parameter":"MSI Check Digit Algorithm",
    "Type":2,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x33,
    "Tag":{
      "0":"MOD 10/MOD 11",
      "1":"MOD 10/MOD 10"
    }
  }</item>

```

```

</string-array>

<string-array name="GS1_DataBar">
    <item>{
        "Parameter":"GS1 DataBar Omnidirectional",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF052
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"GS1 DataBar Limited",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF053
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"GS1 DataBar Expanded",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF054
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Convert GS1 DataBar to UPC/EAN",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF08D
    }</item>
</string-array>

<string-array name="Postal_Codes">
    <item>{
        "Parameter":"US Postnet",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x59
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"US Planet",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x5A
    }</item>

```

```

<item>{
    "Parameter":"Transmit US Postal Check Digit",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x5F
}</item>
<item>{
    "Parameter":"UK Postal",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x5B
}</item>
<item>{
    "Parameter":"Transmit UK Postal Check Digit",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0x60
}</item>
<item>{
    "Parameter":"Japan Postal",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0xF022
}</item>
<item>{
    "Parameter":"Australian Postal",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0xF023
}</item>
<item>{
    "Parameter":"Netherlands KIX Code",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0xF046
}</item>
<item>{
    "Parameter":"USPS 4CB/One Code/intelligent mail",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0xF150
}

```

```

    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"UPU FICS Postal",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF163
    }</item>
</string-array>

<string-array name="Composite">
    <item>{
        "Parameter":"Composite CC-C",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF055
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Composite CC-A/B",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF056
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Composite TLC-39",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF073
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"UPC Compoiste Mode",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":2,
        "Hex":0xF058,
        "Tag":{
            "0":"UPC Never Linked",
            "1":"UPC Always Linked",
            "2":"Autodiscriminate UPC Composites"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Compoiste Beep Mode",
        "Type":2,
        "Min":0,

```

```

        "Max":2,
        "Hex":0xF08E,
        "Tag":{
            "0":"Single Beep after both are decoded",
            "1":"Beep as each code type is decoded",
            "2":"Double Beep after both are decoded"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"GS1-128 Emulation Mode for UCC/EAN Composite Codes",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF0AB
    }</item>
</string-array>

```

```

<string-array name="Symbologies_2D">

```

```

    <item>{
        "Parameter":"PDF417",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x0F
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"MicroPDF417",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xE3
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Code 128 Emulation",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x7B
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Data Matrix",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF024
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Data Matrix Inverse",

```

```

        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":2,
        "Hex":0xF14C,
        "Tag":{
            "0":"Regular",
            "1":"Inverse Only",
            "2":"Inverse Autodetect"
        }
    }</item>
<item>{
    "Parameter":"Decode Mirror Images (Data Matrix Only)",
    "Type":2,
    "Min":0,
    "Max":2,
    "Hex":0xF119,
    "Tag":{
        "0":"Never",
        "1":"Always",
        "2":"Auto"
    }
}</item>
<item>{
    "Parameter":"Maxicode",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0xF026
}</item>
<item>{
    "Parameter":"QR Code",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0xF025
}</item>
<item>{
    "Parameter":"Maxicode",
    "Type":1,
    "Min":0,
    "Max":1,
    "Hex":0xF026
}</item>
<item>{
    "Parameter":"QR Inverse",
    "Type":2,
    "Min":0,
    "Max":2,

```

```

        "Hex":0xF14B,
        "Tag":{
            "0":"Regular",
            "1":"Inverse Only",
            "2":"Inverse Autodetect"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"MicroQR",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF13D
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Aztec",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF13E
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Aztec Inverse",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":2,
        "Hex":0xF14D,
        "Tag":{
            "0":"Regular",
            "1":"Inverse Only",
            "2":"Inverse Autodetect"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Mobile Phone/Display Mode",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0xF1CC
    }</item>
</string-array>

<string-array name="Data_Options">
    <item>{
        "Parameter":"Transmit Code ID Character",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":2,

```



```

        "Hex":0x2D,
        "Tag":{
            "0":"None",
            "1":"Aim Code ID Character",
            "2":"Symbol Code ID Character"
        }
    }</item>
</string-array>

```

```

<string-array name="Serial_Parameters">
    <item>{
        "Parameter":"Baud Rate",
        "Type":2,
        "Min":6,
        "Max":6,
        "Hex":0x9C,
        "Tag":{
            "6":"9600"
        }
    }</item>
</string-array>

```

```

<string-array name="Scanner_Options">
    <item>{
        "Parameter":"Power Mode",
        "Type":1,
        "Min":0,
        "Max":1,
        "Hex":0x80
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Trigger Modes",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":10,
        "Hex":0x8A
        "Tag":{
            "0":"Level",
            "1":"--",
            "2":"--",
            "3":"--",
            "4":"--",
            "5":"--",
            "6":"--",
            "7":"Presentation Mode",
            "8":"Host",
            "9":"Auto Aim",
            "10":"Auto Aim with Illumination"
        }
    }</item>

```

```

<item>{
  "Parameter":""UpperLeftWindowX",
  "Type":4,
  "Min":0,
  "Max":830,
  "Hex":0xFAD1
}</item>
<item>{
  "Parameter":""UpperLeftWindowY",
  "Type":4,
  "Min":0,
  "Max":638,
  "Hex":0xFAD2
}</item>
<item>{
  "Parameter":""LowerRightWindowX",
  "Type":4,
  "Min":1,
  "Max":831,
  "Hex":0xFAD3
}</item>
<item>{
  "Parameter":""LowerRightWindowY",
  "Type":4,
  "Min":1,
  "Max":639,
  "Hex":0xFAD4
}</item>
  <item>{
    "Parameter":""Scan Duration",
    "Type":3,
    "Min":0,
    "Max":99,
    "Hex":0x88
  }
}</item>
<item>{
  "Parameter":""Transmit No Read Message",
  "Type":1,
  "Min":0,
  "Max":1,
  "Hex":0x5E
}</item>
<item>{
  "Parameter":""Linear Code Type Security Level",
  "Type":2,
  "Min":1,
  "Max":4,

```

```

        "Hex":0x4E,
        "Tag":{
            "1":"Linear Security Level 1",
            "2":"Linear Security Level 2",
            "3":"Linear Security Level 3",
            "4":"Linear Security Level 4"
        }
    }</item>
    <item>{
        "Parameter":"Inverse 1D",
        "Type":2,
        "Min":0,
        "Max":2,
        "Hex":0xF14A,
        "Tag":{
            "0":"Regular",
            "1":"Inverse Only",
            "2":"Inverse Autodetect"
        }
    }</item>
</string-array>

```

1.29 デバイスオプションをセット

説明: プリアンブルをセット:

アクション: “unitech.scanservice.preamble”

拡張データ: Name: “preamble”
 Type: String

説明: ポストアンブルをセット:

アクション: “unitech.scanservice.postamble”

拡張データ: Name: “postamble”
 Type: String

説明: ターミネータをセット:

アクション: “unitech.scanservice.terminator”

拡張データ: Name: “terminator”
 Type: String

説明: サウンドをセット:

アクション: “unitech.scanservice.sound”

拡張データ: Name: “sound”
 Type: Boolean

説明: サウンド周波数をセット:

アクション: “unitech.scanservice.frequency”

拡張データ: Name: “frequency”
 Type: String

ノート: PA760 のみサポート

説明: サウンドの時間をセット:

アクション: “unitech.scanservice.duration_time”

拡張データ: Name: “duration”
 Type: String

ノート: PA760 のみサポート

説明: バイブレーションをセット:

アクション: “unitech.scanservice.vibration”

拡張データ: Name: “vibration”
 Type: Boolean

説明: 受信データに対するインテントアクションをセット:

アクション: “unitech.scanservice.intent_action”

拡張データ: Name: “intentaction”
 Type: String

ノート: PA760 のみサポート

説明: 受信データに対するインテントエクストラをセット:

アクション: “unitech.scanservice.intent_extra”

拡張データ: Name: “intentextra”
 Type: String

ノート: PA760 のみサポート

説明: エンコードをセット:

アクション: “unitech.scanservice.encoding”

拡張データ: Name: “encoding”
 Type: Integer

説明: フィールドセパレータをセット:

アクション: “unitech.scanservice.fieldseparator”

拡張データ: Name: “fieldseparator”
 Type: String

説明: 文字間遅延時間をセット:

アクション: “unitech.scanservice.interchar_delay”

拡張データ: Name: “intercharDelay”
 Type: Integer

説明: NFC 有効/無効をセット:

アクション: “unitech.scanservice.nfcenable”

拡張データ: Name: “nfcenable”
 Type: Boolean

説明: NFC 順序をセット:

アクション: “unitech.scanservice.nfcorder”

拡張データ: Name: “nfcorder”
 Type: Boolean

説明: NFC 出力を 10 進数としてセット:

アクション: “unitech.scanservice.nfcasdec”

拡張データ: Name: “nfcasdec”
 Type: Boolean

説明: NFC イグノアレートをセット:

アクション: "unitech.scanservice.nfcignorerate"

拡張データ: Name: "nfcignorerate"
 Type: Integer

説明: GS1-128 AI をセット:

アクション: "unitech.scanservice.aienable"

拡張データ: Name: "aienable"
 Type: Boolean

説明: GS1-128 AI 前をセット:

アクション: "unitech.scanservice.preai"

拡張データ: Name: "preai"
 Type: String

説明: GS1-128 AI 後をセット:

アクション: "unitech.scanservice.postai"

拡張データ: Name: "postai"
 Type: String

説明: HIBC LIC をセット:

アクション: "unitech.scanservice.hibclicensable"

拡張データ: Name: "hibclicensable"
 Type: Boolean

説明: HIBC LIC ヘッダをセット:

アクション: "unitech.scanservice.hibclicheader"

拡張データ: Name: "hibclicheader"
 Type: Boolean

説明: HIBC LIC グループセパレータをセット:

アクション: "unitech.scanservice.preai"

拡張データ: Name: "hibclicgs"
 Type: String

説明: HIBC LIC レコードセパレータをセット:

アクション: "unitech.scanservice.preai"

拡張データ: Name: "hibclicrs"
 Type: String

説明: HIBC LIC 送信終了をセット:

アクション: "unitech.scanservice.preai"

拡張データ: Name: "hibcliceot"
 Type: String

1.30 キーボード出力を有効/無効にする

```
Intent intent = new Intent();
intent.setAction("unitech.scanservice.scan2key_setting");
intent.putExtra("scan2key", true);
sendBroadcast(intent);
```

1.31 スキャンしたデータとデータタイプを受信

```
public void onReceive(Context context, Intent intent) {
    if("unitech.scanservice.data" .equals(intent.getAction()))
    {
        Bundle bundle = intent.getExtras();
        if(bundle != null )
        {
            String text = bundle.getString("text");
            inst.setText(text);
        }
    }
    if("unitech.scanservice.datatype" .equals(intent.getAction()))
    {
        Bundle bundle = intent.getExtras();
        if(bundle != null )
        {
            // code error
            int type = bundle.getString("text");
            int type = bundle.getInt("text");
            String text = "";
            if(type == 0x01)
                text = "This is Code 39.";
            else if(type == 0x02)
                text = "This is Code 39.";
            inst.setText(text);
        }
    }
}
```

PS. データをインテントを通して送信するには、scan2key を false にセットする必要があります。
それ以外の場合には、データはキーボードバッファに送られます。

1.32 プログラム例

プログラム例のソースコードは、“keypad-test” として以下より入手可能です。

http://w3.tw.ute.com/pub/cs/manual/Android_Programming_Manual/keypad_test.zip

ScanServer V1.99 以降については:

https://portal.unitech.eu/Files/Technical/PA-Series-Scannertest-Src_1.0.zip

2. Scan2Key を使用するヒント

2.1. バーコードシンボルを知りたい

ScanService を開きます。

“Settings”タブを選択します。

“Data Options”を選択します。

“Transmit Code ID character” と “AIM Code ID character”を選択します。

バーコードシンボルは、<http://mdn.morovia.com/kb/AIM-Symbology-Identifiers-SI-10639.html> にある記号が付いて送信され、データが 097050214112 の Code 128 バーコー

ドは、**]CO**097050214112 として表示されます。

2.2. 受信データがバーコードデータより長い

ScanService を開き、三つ目のハードウェアキーを押します。

“Device Option”を選択します。

“Terminator” を選択し、テキスト <LF>を外します。

OK を選択します。

2.3. HTML5 を通してバーコードスキャンを有効/無効にする

必要条件

スキャンオフ [DisableScan2Key.apk](#)

(<https://12manage.unitech.eu/RDM/tools/DisableScan2Key.apk>)

スキャンオン [EnableScan2Key.apk](#)

(<https://12manage.unitech.eu/RDM/tools/EnableScan2Key.apk>)

サンプルは以下にあります。 <http://portal.unitech.eu/tools/android.aspx#>

3. 簡易なデータ編集

ScanService V2.30 以降

3.1. データ編集を有効にする

データ編集を有効にするには、まず/sdcard/ フォルダで rule.txt と呼ばれるテキストファイルを作ります。ScanService は、起動時にこのファイルを読み、Scan2Key の機能を使用する時にデータの最終出力にファイル中のルールを適用します。このルールは、データがインテントを経由して送られる場合は適用されません。

データ編集機能を停止したい場合は、/sdcard/ フォルダから rule.txt を消去するだけです。

3.2. rule.txt

現在、ScanService は最大 10 セットのルールをサポートしています。

これは 0 から 9 の番号が付けられ、もしルール 0 に対してクオリファイア(qualifier: 限定条件) がマッチした場合、ルール 0 で停止します。

そうでなければ、ルール 9 まで進みます。すべてのルールに合わない場合、空の文字列が出力されます。

各ルールは、少なくとも一つのクオリファイアが必要です。同じセットに複数のクオリファイアを持つことができます。すべてのクオリファイアがパスした時にのみ、モデファイア(modifier: 変更条件)に進みます。モデファイアが無い場合、元のデータが出力されます。

各行のルールは、少なくとも 4 つのセクションで構成されます。そして各セクションは、コンマで区切られます。

最初のセクションは、このルールの行が **(q)**クオリファイアか、**(m)**モデファイアかを示しています。二番目のセクションは、このルールの行がどのルールのセットに属しているかを示しています。これは **0** から **9** の範囲になければなりません。

三番目のセクションは、このルールの行がクオリファイアかモデファイアかによって異なるオプションを持ちます。

- クオリファイアの場合:

- (t)**ターゲットのシンボル(v2.30 以降):

- これは、このクオリファイアにいくつのシンボルがあるか、そしてクオリファイアとして使用したいシンボルが続きます。

- 例では、チェックしたい 3 つのシンボルがあり、これらは、1(code 39)、19(code 39 フル ASCII)、そして 28(QR code)です。表 A-8 に各シンボルに対する番号があります。現在、ルールは 10 進数のみを使用していますので、表 A-8 の 16 進数を先ず 10 進数に変換して下さい。

- 全部のシンボルを選択するには、シンボル数を 0 にセットします。

- (s)**バーコードのサイズ(v2.30 以降):

- これは、条件が続きます、0 はイコール、1 は未満、2 はより大きいです。そして比較したいサイズが続きます。T

- (e)**通常表記(v2.30 以降):

- これは、Java の通常表記に従います。

- モデファイアの場合:

- (s)**選択(v2.30 以降):

- これは、開始位置、そして選択する長さが続きます。

- すべての残りの文字を表すには長さを 0 にします。

- (r)**置換(v2.52 以降):

- これは、Java の通常表記に従い、そして置き換える文字列が続きます。

このモデファイアは、一致した通常表記を文字列で置き換えます。

以下の例では、ルール 4 で、“4”を含むすべてのバーコードの“4”を“x”で置き換えます。

(i) 挿入 (v3.00.06 以降):

これは、開始位置、そして挿入文字列が続きます。

開始位置が 0 は、バーコードの先頭を意味します。 -1 に設定すると、バーコードの最後に文字列が挿入されます。

(c) lower/upper case: (小文字/大文字)

これは、 1(lower case: 小文字) または 2(upper case: 大文字)に従います。

rule.txt の例:

q,1,t,3,1,19,28

q,1,e,^i.*

m,1,s,1,0

q,2,s,2,10

q,3,t,0

m,3,s,0,0

q,4,e,1

m,4,r,4,x

q,5,t,10

m,i,-1,xyz

以下の例は、

1.abc を EAN-13 バーコードの最後に挿入。

2.そして EAN-8 バーコードの 3 文字目の後に xyz を挿入、します。

q,1,t,1,11

m,1,i,-1,abc

q,2,t,1,10

m,2,i,3,xyz

q,3,t,0,0

m,3,s,0,0

表 SSI ID によるコードタイプ

Symbology SSI ID Code ID AIM ID

Letter

AIM ID Modifier

Code 39 0x01
Codabar 0x02
Code 128 0x03
D25 0x04
IATA 0x05
ITF 0x06
Code 93 0x07
UPCA 0x08
UPCE 3 0x09
EAN-8 0x0A
EAN-13 0x0B
Code 11 0x0C
MSI 0x0E
EAN-128 0x0F
UPCE1 0x10
PDF-417 0x11
Code 39 Full ASCII 0x13
Trioptic 0x15
Bookland 0x16
Coupon Code 0x17
ISBT-128 0x19
Micro PDF 0x1A
Data Matrix 0x1B
QR Code 0x1C
Postnet (US) 0x1E
Planet (US) 0x1F
Code 32 0x20
ISBT-128 Concat. 0x21
Postal (Japan) 0x22
Postal (Australia) 0x23
Postal (Dutch) 0x24
Maxicode 0x25
Postbar (CA) 0x26
Postal (UK) 0x27
Macro PDF-417 0x28
RSS-14 0x30
RSS Limited 0x31
RSS Expanded 0x32
Parameter (FNC3) 0x33
Scanlet Webcode 0x37

Cue CAT Code 0x38
UPCA + 2 0x48
UPCE + 2 0x49
EAN-8 + 2 0x4A
EAN-13 + 2 0x4B
UPCE1 + 2 0x50
Composite(CC-A + EAN-128) 0x51
Composite(CC-A + EAN-13) 0x52
Composite(CC-A + EAN-8) 0x53
Composite (CC-A +RSS Expanded) 0x54
Composite (CC-A +RSS Limited) 0x55
Composite(CC-A + RSS-14) 0x56
Composite(CC-A + UPC-A) 0x57
Composite(CC-A + UPC-E) 0x58
Composite(CC-C + EAN-128) 0x59
TLC-39 0x5A
Composite(CC-B + EAN-128) 0x61
Composite(CC-B + EAN-13) 0x62e Developer's Guide
Composite(CC-B + EAN-8) 0x63
Composite (CC-B +RSS Expanded) 0x64
Composite (CC-B +RSS Limited) 0x65
Composite(CC-B + RSS-14) 0x66
Composite(CC-B + UPC-A) 0x67
Composite(CC-B + UPC-E) 0x68
UPCA + 5 0x88
UPCE + 5 0x89
EAN-8 + 5 0x8A
EAN-13 + 5 0x8B
UPCE1 + 5 0x90
Multipacket Format 0x99
Macro Micro PDF 0x9A

4. SOTI API

4.1. 工場出荷リセット無効

説明:

この関数は、工場出荷時にリセットされることとキャッシュの消去を防ぐために、[設定]メニューから[工場出荷リセットリセット]をブロックし、リカバリメニューでキーの組み合わせをブロックするために使用します。API 操作は、インテントアクション：**android.intent.action.soti.ENABLE_FACTORY_RESET** をベースにしており、**android.permission.MASTER_CLEAR** のパーミッションは必須です。

例:

```
void EnableFactoryReset(int state){
    Intent intent = new Intent();
    if(state != 0){
        intent.putExtra("state", "");
    }
    else{
        intent.putExtra("state", "disable");
    }
    intent.setAction("android.intent.action.soti.ENABLE_FACTORY_RESET");
    ;
    sendBroadcast(intent);
}
```

4.2. USB メディアプレイヤー無効

説明:

この関数は、USB フラッシュメモリドライブが接続または PC / ノートパソコンに接続されているときに USB ホスト/クライアントを無効にするために使用され、充電には影響しません。API 操作は、インテントアクション：**android.intent.action.soti.ENABLE_USB** をベースにしています。

例:

```
void EnableUsb(int state){
    Intent intent = new Intent();
    if(state != 0){
        intent.putExtra("state", "");
    }
    else{
        intent.putExtra("state", "disable");
    }
    intent.setAction("android.intent.action.soti.ENABLE_USB");
    sendBroadcast(intent);
}
```

4.3. OS アップグレードをブロック

説明:

この関数は、"About phone"から "System updates"をブロックし、キャリアプッシュ / OTA プッシュ（通信キャリアからのアップデート通知）をブロックするために使用されます。API 操作は、インテントアクション **intent.genericupdate.switch** をベースにしています。

例:

```
String packageName = "com.innocomm.genericupdate";
String className = "com.innocomm.genericupdate.ControllReceiver";
void EnableOsUpgrade(int state){
    Intent intent = new Intent();
    if(state != 0){
        intent.putExtra("enable ", "true");
    }
    else{
        intent.putExtra("enable ", "false");
    }
    intent.setAction("intent.genericupdate.switch");
    intent.setClassName(packageName, className);
    sendBroadcast(intent);
}
```

4.4. 全 4 キー無効

説明:

この関数は、これらのキーが押されたときに 4 つの物理キー（リターン、ホーム、メニュー、および検索）をすべてブロックするために使用されます。API 操作は、システムプロパティ **persist.soti.key.status** をベースにしています。

例:

```
void EnableKey(int state){
    if(state != 0){
        SystemProperties.set("persist.soti.key.status", "");
    }
    else{
        SystemProperties.set("persist.soti.key.status", "disable");
    }
}
```

4.5. アプリケーションのアンインストールを防止する

説明:

この関数は、「設定」メニューから「アプリケーション」をブロックするために使用されます。API 操作は、システムプロパティ **persist.soti.apps.status** をベースにしています。

例:

```
void EnableApps (int state){
    if(state != 0){
        SystemProperties.set("persist.soti.apps.status ", "");
    }
    else{
        SystemProperties.set("persist.soti.apps.status ", "disable");
    }
}
```

4.6. アカウント追加無効

説明:

この関数は、「設定」メニューから「アカウントを追加」をブロックするために使用されます。API 操作は、システムプロパティ **persist.soti.account.status** をベースにしています。

例:

```
void EnableAddAccount (int state){
    if(state != 0){
        SystemProperties.set("persist.soti.account.status ", "");
    }
    else{
        SystemProperties.set("persist.soti.account.status ", "disable");
    }
}
```

4.7. SMS 着信無効

説明:

この関数は、SMS の受信を無効にするために使用されます。API 操作は **Settings.System : sms_mt_off** をベースにしており、**android.permission.WRITE_SETTINGS** パーミッションが必要です。

例:

```
void EnableIncomingSms (int state){
    if(state != 0){
        Settings.System.putInt(getContentResolver(), "sms_mt_off" , 0);
    }
    else{
        Settings.System.putInt(getContentResolver(), "sms_mt_off", 1);
    }
}
```

4.8. SMS 送信無効

説明:

この関数は、SMS の送信を無効にするために使用されます。API 操作は **Settings.System : sms_mo_off** をベースにしており、**android.permission.WRITE_SETTINGS** パーミッションが必要です。

例:

```

void EnableOutgoingSms (int state){
    if(state != 0){
        Settings.System.putInt(getContentResolver(), "sms_mo_off" , 0);
    }
    else{
        Settings.System.putInt(getContentResolver(), "sms_mo_off", 1);
    }
}

```

4.9. MMS 着信無効

説明:

この関数は、MMS の受信を無効にするために使用されます。 API 操作は

Settings.System : mms_mt_off をベースにしており、

android.permission.WRITE_SETTINGS パーミッションが必要です。

例:

```

void EnableIncomingMms (int state){
    if(state != 0){
        Settings.System.putInt(getContentResolver(), "mms_mt_off", 0);
    }
    else{
        Settings.System.putInt(getContentResolver(), "mms_mt_off", 1);
    }
}

```

4.10. MMS 送信無効

説明:

この関数は、SMS の受信を無効にするために使用されます。 API 操作は

Settings.System : mms_mo_off をベースにしており、

android.permission.WRITE_SETTINGS パーミッションが必要です。

例:

```

void EnableOutgoingMms (int state){
    if(state != 0){
        Settings.System.putInt(getContentResolver(), "mms_mo_off", 0);
    }
    else{
        Settings.System.putInt(getContentResolver(), "mms_mo_off", 1);
    }
}

```

5. デバイスマネージメントインターフェース(DMI)

この JAR は、内部コンポーネントに関する情報を取得するためのソフトウェアに関する API を提供し、その一部を制御することもできます。API 関数は、プログラマがアプリケーションを書くのを助けるために JAR を通して提供されます。 **注：すべてのデバイスがこれらの関数をサポートしているわけではありません。**

サンプルコード http://w3.tw.ute.com/pub/cs/manual/Android_Programming_Manual/SWDMI.zip

5.1. メモリ、ストレージ、および CPU 関係の関数

5.1.1. 内蔵されている内部メモリの容量を得る

説明:

この関数は、内部メモリの合計サイズを取得するために使用します。

関数:

String GetBuildtinTotalMemorySize()

戻り値:

String: 総メモリ容量(GB)

5.1.2. 内蔵されている内部メモリの使用可能な容量を得る

説明:

この関数は、内部メモリの使用可能なサイズを取得するために使用します。

関数:

String GetBuildtinAvailableMemorySize()

戻り値:

String: 使用可能なメモリ容量(GB)

5.1.3. 拡張メモリの合計容量を得る

説明:

この関数は、拡張メモリの合計サイズを取得するために使用します。

関数:

String GetExtensionTotalMemorySize()

戻り値:

String: 総メモリ容量(GB) または "SD カードなし"

5.1.4. 使用可能な拡張メモリの合計容量を得る

説明:

この関数は、拡張メモリの使用可能なサイズを取得するために使用します。

関数:

String GetExtensionAvaiableMemorySize()

戻り値:

String: 使用可能なメモリ容量(GB) または “SD カードなし”

5.1.5. 記憶容量の合計を得る

説明:

この関数は、フラッシュストレージの合計サイズを取得するために使用します。

関数:

String GetTotalStorageSize ()

戻り値:

String: 総記憶容量(GB)

5.1.6. 使用可能な記憶容量の合計を得る

説明:

この関数は、フラッシュストレージの使用可能なサイズを取得するために使用します。

関数:

String GetAvailableStorageSize()

戻り値:

String: 使用可能なメモリ容量(GB)

5.1.7. CPU 負荷を得る

説明:

この関数は、CPU 負荷を取得するために使用します。

関数:

String GetCPULoad()

戻り値:

String: CPU 負荷(%)

5.2 バッテリー関係の関数

5.2.1 バッテリーレベルを得る

説明:

この関数は、バッテリーレベルを取得するために使用します。

関数:

String GetBatteryLevel()

戻り値:

String: バッテリーレベル(%)

5.2.2 バッテリー充電状態を得る

説明:

この関数は、バッテリー充電状態を取得するために使用します。

関数:

String GetBatteryCharged()

戻り値:

String: 充電ステータス(充電中/放電中)

5.2.3 バッテリー温度を得る

説明:

この関数は、バッテリー温度を取得するために使用します。

関数:

String GetBatteryTemperature()

戻り値:

String: バッテリー温度(摂氏)

5.3 ディスプレイとタッチパネル関連の関数

5.3.1 ディスプレイのピクセル数を得る

説明:

この関数は、合計表示ピクセルを取得するために使用します。

関数:

String GetDisplayPixel()

戻り値:

String: 総表示ピクセル数 (X*Y)

5.3.2 ディスプレイの方向を得る

説明:

この関数は、表示方向を取得するために使用します。

関数:

String GetDisplayOrientation()

戻り値:

String: ディスプレイの方向(度)

5.4 カメラ関係の関数

5.4.1 カメラの有無を得る

説明:

この関数は、カメラの現在の状態を取得するために使用します。

関数:

String GetCameraPresent()

戻り値:

String: カメラの有無(あり/なし)

5.5 GPS 関係の関数

5.5.1 GPS がオープンされていることを得る

説明:

この関数は、GPS のオープン状態を取得するために使用します。

関数:

String IsGPSOpened()

パラメータ:

nEnabled: int

0: Disable

1: Enable

戻り値:

String: GPS ステータス(オープン/クローズ)

デバイスが GPS なしの場合、 “Not Supported”

5.5.2 GPS 位置を得る

説明:

この関数は、GPS 位置を取得するために使用します。

関数:

String GetGPSPosition()

戻り値:

String: GPS またはネットワーク位置データ(緯度, 経度)

デバイスが GPS またはネットワークプロバイダーなしの場合、 “Not Supported”

5.6 Bluetooth 関係の関数

5.6.1 サポートされている Bluetooth プロファイルを得る

説明:

この関数は、サポートされている Bluetooth プロファイルを得るために使用されます。

関数:

String GetSupportBluetoothProfile()

戻り値:

String: Bluetooth プロファイル(直接書き込み)

5.6.2 Bluetooth 接続を得る

説明:

この関数は、Bluetooth 接続を得るために使用します。

関数:

String GetBluetoothConnection()

戻り値:

String: Bluetooth 接続(接続/切断)

5.6.3 Bluetooth バージョンを得る

説明:

この関数は、Bluetooth のバージョンを取得するために使用します。

関数:

String GetBlueoothVersion()

戻り値:

String: Bluetooth バージョン(直接書き込み)

5.7 無線 LAN 関連の関数

5.7.1 関連づけられた AP を得る

説明:

この関数は、関連する AP を取得するために使用します。

関数:

String GetAssociatedAP()

戻り値:

String: 関連づけられた AP または “なし”

5.7.2 WLAN 接続を得る

説明:

この関数は、WLAN 接続を得るために使用します。

関数:

String GetWLANConnection()

戻り値:

String: WLAN 接続(接続/切断)

5.7.3 WLAN 信号を得る

説明:

この関数は、WLAN 信号を得るために使用します。

関数:

String GetWLANSignalStrength ()

戻り値:

String: WLAN 信号(%) または “信号なし”

5.8 WWAN 関係の関数

5.8.1 アクティブなネットワークベアラを得る

説明:

この関数は、アクティブなネットワークベアラを得るために使用します。

関数:

String GetActiveNetworkBearers()

戻り値:

String: アクティブネットワークベアラ

5.8.2 サポートされるネットワークベアラを得る

説明:

この関数は、サポートされるネットワークベアラを得るために使用します。

関数:

String GetSupportNetworkBearers()

戻り値:

String: サポートされるネットワークベアラ(直接書き込み)

WiFi のみの場合、"Not Supported"

5.8.3 WWAN 信号を得る

説明:

この関数は、WWAN 信号を得るために使用します。

関数:

String GetWWANSignal()

戻り値:

String: WWAN signal(%)

WiFi のみの場合、"Not Supported"

5.9 ハードウェア情報関係の関数

5.9.1 ハードウェアベンダを得る

説明:

この関数は、ハードウェアベンダを得るために使用します。

関数:

String GetHWVendor()

戻り値:

String: ハードウェアベンダ

5.9.2 ハードウェアモデルを得る

説明:

この関数は、ハードウェアモデルを得るために使用します。

関数:

String GetHWModel()

戻り値:

String: ハードウェアモデル

5.9.3 シリアル番号を得る

説明:

この関数は、シリアル番号を得るために使用します。

関数:

String GetSerialNumber()

戻り値:

String: シリアル番号

5.10 OS 情報関係の関数

5.10.1 OS 名を得る

説明:

この関数は、OS 名を得るために使用します。

関数:

String GetOSName()

戻り値:

String: OS 名 (直接書き込み)

5.10.2 OS バージョンを得る

説明:

この関数は、OS バージョンを得るために使用します。

関数:

String GetOSVersion()

戻り値:

String: OS バージョン

5.10.3 ブートローダーバージョンを得る

説明:

この関数は、ブートローダーバージョンを得るために使用します。

関数:

String GetBootloaderVersion()

戻り値:

String: ブートローダーバージョン

5.11 IP アドレス関係の関数

5.11.1 WLAN IP アドレスを得る

説明:

この関数は、WLAN IP アドレスを得るために使用します。

関数:

String GetWLANIPAddress()

戻り値:

String: WLAN IP アドレス

5.11.2 WWAN IP アドレスを得る

説明:

この関数は、WWAN IP アドレスを得るために使用します。

関数:

String GetWWANIPAddress()

戻り値:

String: WWAN IP アドレス

WiFi のみの場合、"Not Support"

5.12 トリガイイベント関係の関数

5.12.1 トリガルール構造

説明:

このクラスは、トリガイイベントをセットするために使用します。

関数:

```
public class TRIGGER_RULE{  
    public int nOperation;  
    public float nValue;  
}
```

パラメータ:

nOperation: int: トリガルールの操作

nValue: float: トリガルール操作の値

5.12.2 使用可能な内蔵メモリサイズイベントトリガ

説明:

この関数は、使用可能な内蔵メモリサイズのトリガイイベントを設定するために使用されます。

関数:

```
void SetTriggerBuiltinAvailableMemorySize(int nNumberOfTriggerRules,  
TRIGGER_RULE pTriggerRuleAry[])
```

パラメータ:

nNumberOfTriggerRules: [in]int: トリガルールの数

pTriggerRuleAry[: [in] セットするトリガルール

5.12.3 使用可能な拡張メモリサイズイベントのトリガ

説明:

この関数は、使用可能な拡張メモリサイズのトリガイイベントをセットするために使用し

ます。

関数:

```
void SetTriggerExtensionAvailableMemorySize(int nNumberOfTriggerRules,  
TRIGGER_ROLE pTriggerRuleAry[])
```

パラメータ:

nNumberOfTriggerRules: [in]int: トリガルールの数
pTriggerRuleAry[]: [in] セットするトリガルール

5.12.4 使用可能なストレージサイズイベントのトリガ

説明:

この関数は、使用可能なストレージメモリサイズのトリガイイベントをセットするために使用します。

関数:

```
void SetTriggerAvailableStorageSize(int nNumberOfTriggerRules, TRIGGER_ROLE  
pTriggerRuleAry[])
```

Parameter:

nNumberOfTriggerRules: [in]int: トリガルールの数
pTriggerRuleAry[]: [in] セットするトリガルール

5.12.5 CPU 負荷イベントのトリガ

説明:

この関数は、CPU 負荷のトリガイイベントをセットするために使用します。

関数:

```
void SetTriggerCPULoad(int nNumberOfTriggerRules, TRIGGER_ROLE  
pTriggerRuleAry[])
```

パラメータ:

nNumberOfTriggerRules: [in]int: トリガルールの数
pTriggerRuleAry[]: [in] セットするトリガルール

5.12.6 バッテリ温度イベントのトリガ

説明:

この関数は、バッテリ温度のトリガイイベントをセットするために使用します。

関数:

```
void SetTriggerBatteryTemperature(int nNumberOfTriggerRoles, TRIGGER_ROLE  
pTriggerRuleAry[])
```

パラメータ:

nNumberOfTriggerRules: [in]int: トリガルールの数
pTriggerRuleAry[]: [in] セットするトリガルール

5.12.7 バッテリレベルイベントのトリガ

説明:

この関数は、バッテリレベルのトリガイイベントをセットするために使用します。

関数:

```
void SetTriggerBatteryLevel(int nNubmerOfTriggerRules, TRIGGER_RULE  
pTriggerRuleAry[])
```

パラメータ:

nNumberOfTriggerRules: [in]int: トリガルールの数
pTriggerRuleAry[]: [in] セットするトリガルール

5.12.8 リプレースサービス登録

説明:

この関数は、リプレースサービスを登録するために使用します。

関数:

```
int RegisterReplaceService(String packageName, String className)
```

パラメータ:

packageName: [in]String: 入力パッケージ名
className [in]String: 入力サービスクラス名

戻り値:

iInt 0: 失敗
1: 成功

5.12.9 リプレースサービス登録解除

説明:

この関数は、リプレースサービス登録解除のために使われます。

関数:

```
void DeregisterReplaceService()
```

5.13 Ethernet 関係の関数

5.13.1 Ethernet IP アドレスを得る

説明:

この関数は、Ethernet IP アドレスを得るために使われます。

関数:

```
String GetEthernetIPAddress()
```

戻り値

String: Ethernet IP アドレス

5.13.2 Ethernet マスクを得る

説明:

この関数はEthernet マスクを得るために使われます。

関数:

```
String GetEthernetMask()
```

戻り値

String: Ethernet マスク

5.13.3 Ethernet ゲートウェイ IP アドレスを得る

説明:

この関数は Ethernet ゲートウェイ IP アドレスを得るために使われます。

関数:

String GetEthernetGatewayIPAddress()

戻り値:

String: Ethernet ゲートウェイ IP アドレス

5.13.4 Ethernet DNS サーバーを得る

説明:

この関数は Ethernet DNS サーバーを得るために使われます。

関数:

String GetEthernetDNSServer()

戻り値:

String: Ethernet DNS サーバー

5.13.5 Ethernet MAC アドレスを得る

説明:

この関数は Ethernet MAC アドレスを得るために使われます。

関数:

String GetEthernetMACAddress()

戻り値:

String: Ethernet MAC アドレス

6 Unitech API

6.1 Bluetooth を有効/無効にする

説明:

Bluetooth を有効または無効にします。

バンドル:

Key: 001, Value: "Bluetooth", Type: String

Key: enable, Value: true/false, Type: Boolean

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.2 Is Root(ルートかどうか)

説明:

権限があるかどうかをチェックします。

バンドル:

Key: 001, Value: "isRooted", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.3 インストール

説明:

apk をインストールします。

バンドル:

Key: 001, Value: "install [APK Full Path]", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.App

6.4 アップデート

説明:

apk をアップデートします。

バンドル:

Key: 001, Value: "install -r [APK Full Path]", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.App

6.5 アンインストール

説明:

apk をアンインストールします。

バンドル:

Key: 001, Value: “uninstall [full package name]”, Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.App

6.6 ワイヤレス接続

説明:

無線に接続します。

バンドル:

Key: SSID, Value: “[SSID]”, Type: String

Key: PreSharedKey, Value: [Password], Type: String

Key: 001, Value: “setPreSharedKey”, Type: String

Key: 002, Value: “addNetwork”, Type: String

Key: 003, Value: “enableNetwork”, Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.7 ワイヤレス切断

説明:

無線を切断します。

バンドル:

Key: SSID, Value: “[SSID]”, Type: String

Key: 001, Value: “removeNetwork”, Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.8 ワイヤレス IP アドレスを得る

説明:

現在の IP アドレスを取得します。

バンドル:

Key: 001, Value: “getCurrentIP”, Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.9 ワイヤレス SSID を得る

説明:

SSID 現在接続されている SSID を取得します。

バンドル:

Key: 001, Value: "getCurrentSSID", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.10 セキュリティレベルを得る

説明:

無線セキュリティレベルを取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: 001, Value: "getLinkSecurityLevel", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.11 プリシェアードキーを得る

説明:

プリシェアードキーを取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: 001, Value: "getPreSharedKey", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.12 アプリケーションデータをクリア

説明:

アプリケーションデータをクリアします。

バンドル:

Key: Package, Value: "[PackageName]", Type: String

Key: 001, Value: "clearApplicationData", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.13 非マーケットアプリケーションインストールの有効/無効

説明:

非マーケットアプリケーションインストールを有効/無効にします。

バンドル:

Key: 001, Value: "installNonMarketApps", Type: String

Key: enable, Value: true/false, Type: Boolean

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.14 OTA OS アップデート有効/無効

説明:

OTA OS アップデートを有効/無効にします。

バンドル:

Key: enable, Value: true/false, Type: Boolean

インテント:

Action: intent.genericupdate.switch

PackageName: com.innocomm.genericupdate

ClassName: com.innocomm.genericupdate.ControllReceiver

6.15 OTA OS アップデート自動スタート

説明:

OTA OS アップデートを自動スタートします。

バンドル:

Key: auto, Value: true/false, Type: Boolean

Key: specificPath, Value: "[File Path]", Type: Boolean

インテント:

Action: Intent.ACTION_VIEW

Flag: Intent.FLAG_ACTIVITY_NEW_TASK

PackageName: com.innocomm.genericupdate

ClassName: com.innocomm.genericupdate.UpdateActivity

6.16 アプリケーション有効/無効

説明:

アプリケーションを有効/無効にします。

バンドル:

Key: Package, Value: "[Array of Package Name]", Type: StringArray

Key: enable, Value: true/false, Type: Boolean

Key: 001, Value: "enableApplications", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.17 NFC 有効/無効

説明:

NFC を有効/無効にします。

バンドル:

Key: 001, Value: "enableNFC", Type: String

Key: enable, Value: true/false, Type: Boolean

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.18 USB デバッグ有効/無効

説明:

USB デバッグを有効/無効にします。

バンドル:

Key: 001, Value: "USBdebugging", Type: String

Key: enable, Value: true/false, Type: Boolean

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.19 OS パッケージインストール

説明:

OS パッケージをインストールします。

バンドル:

Key: 001, Value: "installOSpackage", Type: String

Key: Package, Value: [File Path], Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.20 リブート

説明:

デバイスをリブートします。

バンドル:

Key: 001, Value: "reboot", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.21 GPS 有効/無効

説明:

GPS を有効/無効にします。

バンドル:

Key: 001, Value: "enableGPS", Type: String

Key: enable, Value: true/false, Type: Boolean

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.22 工場出荷リセット

説明:

工場出荷にリセットします。

バンドル:

Key: 001, Value: "factoryReset", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.23 WiFi 有効/無効

説明:

WiFi を有効/無効にします。

バンドル:

Key: 001, Value: "enableWiFi", Type: String

Key: enable, Value: true/false, Type: Boolean

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.24 機内モード有効/無効

説明:

機内モードを有効/無効にします。

バンドル:

Key: 001, Value: "airplaneMode", Type: String

Key: enable, Value: true/false, Type: Boolean

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.25 システム時刻をセット

説明:

システム時刻をセットします。

バンドル:

Key: 001, Value: "setTime", Type: String

Key: datetimestring, Value: "setTime", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.26 認証をインストール

説明:

認証をインストールします。

バンドル:

Key: 001, Value: "installCertificate", Type: String

Key: file, Value: "[File Path]", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Util

6.27 パスワードを得る

説明:

パスワードを取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: 001, Value: "getPassword", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.28 パスワードをセット

説明:

パスワードをセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: Password, Value: "[Password]", Type: String

Key: 001, Value: "setPassword", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.29 アイデンティティを得る

説明:

アイデンティティを取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: “[SSID]”, Type: String

Key: 001, Value: “getIdentity”, Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.30 アイデンティティをセットする

説明:

アイデンティティをセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: “[SSID]”, Type: String

Key: Identity, Value: “[Identity]”, Type: String

Key: 002, Value: “setIdentity”, Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.31 匿名のアイデンティティを得る

説明:

匿名のアイデンティティを取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: “[SSID]”, Type: String

Key: 001, Value: “getAnonymousIdentity”, Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.32 匿名のアイデンティティをセットする

説明:

匿名のアイデンティティをセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: “[SSID]”, Type: String

Key: anonymousIdentity, Value: “[Identity]”, Type: String

Key: 001, Value: “setAnonymousIdentity”, Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.33 フェーズ 2 メソッドを得る

説明:

フェーズ 2 メソッドを取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: 001, Value: "getPhase2Method", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.34 フェーズ 2 メソッドをセットする

説明:

フェーズ 2 メソッドをセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: Phase2Method, Value: "[Phase 2 Method]", Type: String

Key: 001, Value: "getPhase2Method", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.35 クライアント認証を得る

説明:

クライアント認証を取得します。

バンドル:

Key: 001, Value: "getClientCertificate", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.36 クライアント認証をセットする

説明:

クライアントの認証をセットします。

バンドル:

Key: 001, Value: "setClientCertificate", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.37 CA 認証を得る

説明:

CA 認証を取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: 001, Value: "getCaCertificate", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.38 CA 認証をセットする

説明:

CA 認証をセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: CaCertificateFile, Value: "[Certificate File]", Type: String

Key: 001, Value: "setCaCertificate", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.39 EAP メソッドを得る

説明:

EAP メソッドを取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: 001, Value: "getEapMethod", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.40 EAP メソッドをセットする

説明:

EAP メソッドをセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: EapMethod, Value: "[EAP Method]", Type: String

Key: 001, Value: "setEapMethod", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.41 サブジェクトマッチを得る

説明:

サブジェクトマッチを取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: 001, Value: "getSubjectMatch", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.42 サブジェクトマッチをセットする

説明:

サブジェクトマッチをセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: subjectMatch, Value: "[Subject Match]", Type: String

Key: 001, Value: "setSubjectMatch", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.43 許可されたキー管理をセットする

説明:

許可されたキー管理をセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: KeyManagement, Value: "[Key Management]", Type: String

Key: 001, Value: "setAllowedKeyManagement", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.44 許可されたプロトコルをセットする

説明:

許可されたプロトコルをセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: Protocol, Value: "[Protocol]", Type: String

Key: 001, Value: "setAllowedProtocols", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.45 許可されたペアワイズ暗号をセットする

説明:

許可されたペアワイズ暗号をセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: PairwiseCipher, Value: "[Pairwise Cipher]", Type: String

Key: 001, Value: "setAllowedPairwiseCiphers", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.46 許可されたグループ暗号をセットする

説明:

許可されたグループ暗号をセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: GroupCipher, Value: "[Group Cipher]", Type: String

Key: 001, Value: "setAllowedGroupCiphers", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.47 WEP Tx キーインデックスを得る

説明:

WEP Tx キーインデックスを取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: 001, Value: "getWepTxKeyIndex", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.48 WEP Tx キーインデックスをセットする

説明:

WEP Tx キーインデックスをセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: wepTxKeyIndex, Value: "[Key Index]", Type: Int

Key: 001, Value: "setWepTxKeyIndex", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.49 WEP キーを得る

説明:

WEP キーを取得します。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: wepKeyIndex, Value: "[Key Index]", Type: Int

Key: 001, Value: "getWepKey", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

6.50 WEP キーをセットする

説明:

WEP キーをセットします。

バンドル:

Key: SSID, Value: "[SSID]", Type: String

Key: wepKeyIndex, Value: "[Key Index]", Type: Int

Key: 001, Value: "setWepKey", Type: String

インテント:

PackageName: com.ute.eu.unitechapi

ClassName: com.ute.eu.unitechapi.Wifi

7 Unitech バッテリ API

このセクションでは、**Intent.ACTION_BATTERY_CHANGED** インテントの特別な値から取得できる特別なバッテリー情報について説明します。開発者は、**Intent.ACTION_BATTERY_CHANGED** インテントを待つために **BroadcastReceiver** を登録する必要があり、そしてインテントが発生したときに情報を取得します。

7.1 健康状態

説明:

この情報は、現在のバッテリーの健康状態（SOH）情報を設計容量のパーセンテージで示します。これは、受信した **Intent.ACTION_BATTERY_CHANGED** インテントの **"state_of_health"** の特別な値から取得できます。

値のフォーマット:

String, "0" から "100"

例:

```
private BroadcastReceiver mBroadcastReceiver = new BroadcastReceiver() {
    @Override
    public void onReceive(Context context, Intent intent) {
        String action = intent.getAction();
        if (action.equals(Intent.ACTION_BATTERY_CHANGED)) {
            String state_of_health = intent.getStringExtra("state_of_health");
        }
    }
};
```

7.2 サイクルカウント

説明:

この情報は、バッテリーの放電サイクル数を表示します。これは、受信した **Intent.ACTION_BATTERY_CHANGED** インテントの **"cycle"** の特別な値から取得します。

値のフォーマット:

String, "0" から "65535"

例:

```
private BroadcastReceiver mBroadcastReceiver = new BroadcastReceiver() {
    @Override
    public void onReceive(Context context, Intent intent) {
        String action = intent.getAction();
```



```

        if (action.equals(Intent.ACTION_BATTERY_CHANGED)) {
            String cycle_count = intent.getStringExtra("cycle");
        }
    }
};

```

7.3 シリアル番号

説明:

この情報は、現在使用しているバッテリーのシリアル番号を示しています。これは、受信した **Intent.ACTION_BATTERY_CHANGED** インテントの "serial_number" の特別な値から取得します。

値のフォーマット:

String, "00000" から "65535"

例:

```

private BroadcastReceiver mBroadcastReceiver = new BroadcastReceiver() {
    @Override
    public void onReceive(Context context, Intent intent) {
        String action = intent.getAction();
        if (action.equals(Intent.ACTION_BATTERY_CHANGED)) {
            String serial_number = intent.getStringExtra("serial_number");
        }
    }
};

```

7.4 製造日

説明:

この情報は、現在使用しているバッテリーの製造日が表示されます。これは、受信した **Intent.ACTION_BATTERY_CHANGED** インテントの "manufacture_date" の特別な値から取得します。

値のフォーマット:

String of date: "YYYY-MM-DD" フォーマット

例:

```

private BroadcastReceiver mBroadcastReceiver = new BroadcastReceiver() {
    @Override
    public void onReceive(Context context, Intent intent) {
        String action = intent.getAction();
        if (action.equals(Intent.ACTION_BATTERY_CHANGED)) {
            String manufacture_date = intent.getStringExtra("manufacture_date");

```

```
    }  
  }  
};
```

8 その他の API

8.1 シリアル番号

説明:

これは、PA726 のみのデバイスのシリアル番号を取得する方法です。

例:

```
Class<?> c = Class.forName("android.os.SystemProperties");  
Method get = c.getMethod("get", String.class, String.class );  
String value = (String)(get.invoke(c, "persist.sys.unitech.ro.serialno",  
"unknown" ));
```

9 Scanservice の追加情報

9.1 コード ID テーブル

デバイスが PA700, PA726, PA760 1D の場合、Zebra Code ID をご覧ください。

デバイスが、PA760 2D の場合、Honeywell Code ID をご覧ください。

シンボル名	Zebra Code ID	Honeywell Code ID	EX25 Code ID
Code 39	0x01	0x62	0x0D
UPC-A	0x08	0x63	0x03
UPC-E	0x09	0x45	0x04
EAN-13/JAN-13	0x0B	0x64	0x01
EAN-8/JAN-8	0x0A	0x44	0x02
Discrete 2 of 5	0x04		
Interleaved 2 of 5	0x06	0x65	0x0F
Codabar	0x02	0x61	0x13
Code 128	0x03	0x6A	0x17
Code 93	0x07	0x69	0x19
Code 11	0x0C	0x68	0x1A
MSI	0x0E	0x67	0x15
UPC-E1	0x10	0x45	
Trioptic Code 39	0x15	0x3D	0x47
GS1-128 (formerly UCC/EAN-128)	0x0F	0x49	0x22
PDF417	0x11	0x72	0x21
Code 39 Full ASCII Conversion	0x13		
Bookland EAN	0x16		0x3C
ISBT 128	0x19		0x23
UCC Coupon Extended Code		0x3B	
Convert Code 39 to Code 32	0x20	0x3C	0x1D
US Postnet	0x1E	0x50	0x3D
US Planet	0x1F	0x4C	0x3E
UK Postal	0x27		
MicroPDF417	0x1A	0x52	0x24
Japan Postal	0x22	0x4A	0x42
Australia Post	0x23	0x41	0x41
Data Matrix	0x1B	0x77	0x28

QR Code	0x1C	0x73	0x29
Maxicode	0x25	0x78	0x2A
Netherlands KIX Code(Dutch Postal)	0x24	0x4B	0x43
GS1 DataBar-14	0x30	0x79	0x25
GS1 DataBar Limited	0x31	0x7B	0x26
GS1 DataBar Expanded	0x32	0x7D	0x27
Chinese 2 of 5	0x72		
MicroQR	0x2C	0x73	
Aztec	0x2D	0x7A	0x4A
Korean 3 of 5	0x73	0x3F	0x45
USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail	0x34	0x4D	
UPU FICS Postal	0x35	0x4E	
ISSN EAN	0x36		0x49
Matrix 2 of 5	0x39	0x6D	0x11
Han Xin	0xB7	0x48	0x50
Dot Code		0x2E	
OCR		0x4F	
IATA	0x05		
Code 49	0x0D		
Code 16K	0x12		
UPC-D	0x14		
Coupon Code	0x17		
NW-7	0x18		
Micro PDF CCA	0x1D		
ISBT-128 Con	0x21		
Canadian Postal	0x26		
Macro PDF	0x28		
Macro QR	0x29		
Aztec Rune	0x2E		
Scanlet	0x37		
CueCode	0x38		
UPC-A + 2 Supplemental	0x48		
UPC-E0 + 2 Supplemental	0x49		
EAN-8 + 2 Supplemental	0x4A		
EAN-13 + 2 Supplemental	0x4B		
UPC-E1 + 2 Supplemental	0x50		
CCA EAN-128	0x51		0x2E
CCA EAN-13	0x52		0x2F
CCA EAN-8	0x53		0x30

CCA GS1 DataBar Expanded	0x54		0x2D
CCA GS1 DataBar Limited	0x55		0x2C
CCA GS1 DataBar-14	0x56		0x2B
CCA UPC-A	0x57		0x31
CCA UPC-E	0x58		0x32
CCC EAN-128	0x59		0x3B
TLC-39	0x5A	0x54	0x46
CCB EAN-128	0x61		0x36
CCB EAN-13	0x62		0x37
CCB EAN-8	0x63		0x38
CCB GS1 DataBar Expanded	0x64		0x35
CCB GS1 DataBar Limited	0x65		0x34
CCB GS1 DataBar-14	0x66		0x33
CCB UPC-A	0x67		0x39
CCB UPC-E	0x68		0x3A
Signature Capture	0x69		
UPC-A + 5 supplemental	0x88		
UPC-E0 + 5 supplemental	0x89		
EAN-8 + 5 supplemental	0x8A		
EAN-13 + 5 supplemental	0x8B		
UPC-E1 + 5 Supplemental	0x90		
Macro Micro PDF	0x9A		
GS1 Databar Coupon	0xB4		

9.2 コマンドテーブル

Prameter Number	Command Name	PA726 1D	PA760 1D	PA726 2D	PA760/EA630 2D	PA760 EX25
0	Enable/Disable Code 39	1	1	1	1	1
1	Enable/Disable UPC-A	1	1	1	1	1
2	Enable/Disable UPC-E	1	1	1	1	1
3	Enable/Disable EAN-13/JAN-13	1	1	1	1	1
4	Enable/Disable EAN-8/JAN-8	1	1	1	1	1
5	Enable/Disable Discrete 2 of 5	0	0	0		
6	Enable/Disable Interleaved 2 of 5	1	1	1	1	1
7	Enable/Disable Codabar	0	0	0	1	1
8	Enable/Disable Code 128	1	1	1	1	1
9	Enable/Disable Code 93	0	0	0	0	0
10	Code 11	0	0	0	0	0
11	Enable/Disable MSI	0	0	0	0	0
12	Enable/Disable UPC-E1	0	0	0	0	0
13	Enable/Disable Trioptic Code 39	0	0	0	0	
14	Enable/Disable GS1-128 (formerly UCC/EAN-128)	1	1	1	1	1
15	Enable/Disable PDF417			1	1	1
16	Decode UPC/EAN/JAN Supplementals	0	0	0		
17	Code 39 Full ASCII Conversion	0	0	0	0	0
18	Set Lengths for Code 39 Length1 Parameter	2	2	2	0	0
19	Set Lengths for Code 39 Length2 Parameter	55	55	55	80	48
20	Set Lengths for Discrete 2 of 5 Length1 Parameter	12	12	12		
21	Set Lengths for Discrete 2 of 5 Length2 Parameter	0	0	0		
22	Set Lengths for Interleaved 2 of 5 Length1 Parameter	14	14	14	4	4
23	Set Lengths for Interleaved 2 of 5 Length2 Parameter	0	0	0	80	80

24	Set Lengths for Codabar Length1 Parameter	5	5	5	4	4
25	Set Lengths for Codabar Length2 Parameter	55	55	55	60	60
26	Set Lengths for Code 93 Length1 Parameter	4	4	4	0	0
27	Set Lengths for Code 93 Length2 Parameter	55	55	55	80	80
28	Set Lengths for Code 11 Length1 Parameter	4	4	4	4	4
29	Set Lengths for Code 11 Length2 Parameter	55	55	55	80	80
30	Set Lengths for MSI Length1 Parameter	6	6	4	4	4
31	Set Lengths for MSI Length2 Parameter	55	55	55	48	48
34	UPC-A Preamble	1	1	1	1	1
35	UPC-E Preamble	1	1	1	1	1
36	UPC-E1 Preamble	1	1	1		
37	Convert UPC-E to UPC-A	0	0	0	0	0
38	Convert UPC-E1 to UPC-A	0	0	0		
39	EAN-8/JAN-8 Extend	0	0	0		
40	Transmit UPC-A Check Digit	1	1	1	1	1
41	Transmit UPC-E Check Digit	1	1	1	1	1
42	Transmit UPC-E1 Check Digit	1	1	1		
43	Transmit Code 39 Check Digit	0	0	0		0
44	Transmit I 2 of 5 Check Digit	0	0	0		0
45	Transmit Code ID Character	0	0	0		
46	Transmit MSI Check Digit(s)	0	0	0		0
47	Transmit Code 11 Check Digits	0	0	0		0
48	Code 39 Check Digit Verification	0	0	0	0	0
49	I 2 of 5 Check Digit Verification	0	0	0	0	0
50	MSI Check Digits	0	0	0		
51	MSI Check Digit Algorithm	1	1	1	0	1
52	Code 11 Check Digit Verification	0	0	0	2	1
54	CLSI Editing	0	0	0		0
55	NOTIS Editing	0	0	0	1	
82	Convert I 2 of 5 to EAN-13	0	0	0		
83	Enable/Disable Bookland EAN	0	0	0		

84	Enable/Disable ISBT 128	1	1	1	1	1
85	UCC Coupon Extended Code	0	0	0	0	
86	Convert Code 39 to Code 32	0	0	0	0	*(1)
89	US Postnet			1	0	0
90	US Planet			1	0	
91	UK Postal			1		
94	Transmit "No Read" Message			0		
95	Transmit US Postal Check Digit			1		
96	Transmit UK Postal Check Digit			1		
123	Code 128 Emulation			0		
136	Decode Session Timeout	30	30	99		
137	Timeout Between Decodes, Same Symbol			6		
138	Trigger Mode	0	0	0		
209	Set Lengths for Code 128 Length1 Parameter	1	1	0	0	0
210	Set Lengths for Code 128 Length2 Parameter	55	55	0	80	80
227	Enable/Disable MicroPDF417			0	0	0
231	Code 32 Prefix	0	0	0		
290	Japan Postal			1	0	0
291	Australia Post			1	0	0
292	Data Matrix			1	1	1
293	QR Code			1	1	1
294	Maxicode			1	1	1
326	Netherlands KIX Code			1	0	0
338	GS1 DataBar-14	1	1	1	1	1
339	GS1 DataBar Limited	1	1	0	1	1
340	GS1 DataBar Expanded	1	1	0	1	1
341	Composite CC-C			0	0	0
342	Composite CC-A/B			0		
371	Composite TLC-39			0	0	0
397	Convert GS1 DataBar to UPC/EAN	0	0	0		
	Picklist Mode			0		
408	Enable/Disable Chinese 2 of 5	0	0	0		
573	MicroQR			1		
574	Aztec			1	1	1
576	Bookland ISBN Format	0		0		
586	Inverse 1D	0		0		
588	Data Matrix Inverse			0		

589	Aztec Inverse			0		
592	USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail			0	0	
611	UPU FICS Postal			0	0	
617	ISSN EAN	0	0	0		
618	Enable/Disable Matrix 2 of 5	0	0	0	0	0
619	Set Lengths for Matrix 2 of 5 Length1 Parameter	14	14	14	4	4
620	Set Lengths for Matrix 2 of 5 Length2 Parameter	0	0	0	80	80
622	Matrix 2 of 5 Check Digit	0	0	0		
623	Transmit Matrix 2 of 5 Check Digit	0	0	0		
680	OCR-A			0		
681	OCR-B			0		
682	MICR E13B			0		
683	US Currency			0		
685	OCR-B Variant			0		
687	OCR Orientation			4		
716	Mobile Phone/Display Mode			0		
764	Illumination Power Level			10		
856	Inverse OCR			0		
900	Multi Decode Mode			0		
901	Full Read Mode			1		
902	Bar Codes to Read			1		
1167	Han Xin			0	0	0
1168	Han Xin Inverse			0		
3001	UPC-A 2 Digit Addenda				0	0
3002	UPC-A 5 Digit Addenda				0	0
3003	UPC-A Addenda Required				0	0
3004	UPC-A Addenda Separator				0	
3005	UPC-E0 2 Digit Addenda				0	0
3006	UPC-E0 5 Digit Addenda				0	0
3007	UPC-E0 Addenda Required				0	0
3008	UPC-E0 Addenda Separator				0	
3009	EAN-8 2 Digit Addenda				0	0
3010	EAN-8 5 Digit Addenda				0	0
3011	EAN-8 Addenda Required				0	0
3012	EAN-8 Addenda Separator				0	
3013	EAN-13 2 Digit Addenda				0	0

3014	EAN-13 5 Digit Addenda				0	0
3015	EAN-13 Addenda Required				0	0
3016	EAN-13 Addenda Separator				0	
3017	EAN-8 Transmit Check Digit				1	1
3018	EAN-13 Transmit Check Digit				1	1
3019	Dot Code				1	
3020	OCR Enable				0	
3021	OCR Mode				3	
3022	OCR Template				2	

ノート:

*(1) : この機能は、コマンド 48 オプション 3 "Italian CIP(Code32)"に含まれています。

9.3 コマンド情報

UPC/EAN

UPC-A 有効/無効

SSI # 01h

Parameter # 1

UPC-A を有効または無効にします。

*UPC-A 有効

(01h)

UPC-A 無効

(00h)

UPC-E 有効/無効

SSI # 02h

Parameter # 2

UPC-E を有効または無効にします。

*UPC-E 有効

(01h)

UPC-E 無効

(00h)

UPC-E1 有効/無効

SSI # 0Ch

Parameter # 12

UPC-E1 は、デフォルトでは無効です。

UPC-E1 を有効または無効にします。

UPC-E1 有効

(01h)

*UPC-E1 無効

(00h)

EAN-8/JAN-8 有効/無効

SSI # 04h

Parameter # 4

EAN-8/JAN-8 を有効または無効にします。

ノート UPC-E1 は、UCC (Uniform Code Council: 米国・カナダの商品コード管理機関) で認められたシンボルではありません。

*EAN-8/JAN-8 有効

(01h)

EAN-8/JAN-8 無効

(00h)

EAN-13/JAN-13 有効/無効

SSI # 03h

Parameter # 3

EAN-13/JAN-13 を有効または無効にします。

*** EAN-13/JAN-13 有効**

(01h)

EAN-13/JAN-13 無効

(00h)

Bookland EAN 有効/無効

SSI # 53h

Parameter # 83

Bookland EAN を有効または無効にします。

Bookland EAN 有効

(01h)

*** Bookland EAN 無効**

(00h)

Bookland ISBN フォーマット

SSI # F1h 40h

Parameter # 576

Bookland EAN が有効な場合、Bookland データについて以下のフォーマットのの一つを選択します：

- **Bookland ISBN-10** -デコーダは、従来の 10 桁フォーマットの 978 から始まる Bookland データを、後方互換性のために特別な Bookland チェックデジットでレポートします。 979 で始まるデータは、このモードでは Bookland とはみなされません。

- **Bookland ISBN-13** -デコーダは、2007 ISBN-13 プロトコルに適合するために Bookland データ (978 または 979 で始まる) を EAN-13 として 13 桁のフォーマットでレポートします。

***Bookland ISBN-10**

(00h)

Bookland ISBN-13

(01h)

UPC/EAN/JAN サプリメントをデコード

SSI # 16

Parameter # 10h

サプリメントを持つ UPC/EAN/JAN のみをデコード

(01h)

*** サプリメントを無視**

(00h)

UPC/EAN/JAN サプリメントを自動的に識別します

(02h)

**378/379 サプリメントモード有効
(04h)**

**978/979 サプリメントモード有効
(05h)**

**977 サプリメントモード有効
(07h)**

**414/419/434/439 サプリメントモード有効
(06h)**

**491 サプリメントモード有効
(08h)**

**スマートサプリメントモード有効
(03h)**

UPC-A チェックデジット送信

SSI # 28h

Parameter # 40

チェックデジットは、データの完全性を検証するために使用するシンボルの最後の文字です。データの完全性を保証するために常に検証されます。

***UPC-A チェックデジット送信**

(01h)

**UPC-A チェックデジット送信しない
(00h)**

UPC-E チェックデジット送信

SSI # 29h

Parameter # 41

チェックデジットは、データの完全性を検証するために使用するシンボルの最後の文字です。データの完全性を保証するために常に検証されます。

***UPC-E チェックデジット送信**

(01h)

**UPC-E チェックデジット送信しない
(00h)**

UPC-E1 チェックデジット送信

SSI # 2Ah

Parameter # 42

チェックデジットは、データの完全性を検証するために使用するシンボルの最後の文字です。データの完全性を保証するために常に検証されます。

***UPC-E1 チェックデジット送信**

(01h)

**UPC-E1 チェックデジット送信しない
(00h)**

UPC-A プリアンブル

SSI # 22h

Parameter # 34

プリアンブル文字は UPC シンボルの一部であり、国コードとシステム文字を含みます。UPC-A プリアンブルをホストデバイスに送信するには、次の 3 つのオプションがあります： 送信システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コードを送信します（米国の場合は「0」）、そしてプリアンブルを送信しない。ホストシステムと一致する適切なオプションを選択します。

プリアンブル無し (<DATA>)

(00h)

*システム文字 (<SYSTEM CHARACTER> <DATA>)

(01h)

システム文字と国コード

(< COUNTRY CODE> <SYSTEM CHARACTER> <DATA>)

(02h)

UPC-E プリアンブル

SSI # 23h

Parameter # 35

プリアンブル文字は UPC シンボルの一部であり、国コードとシステム文字を含みます。UPC-E プリアンブルをホストデバイスに送信するには、次の 3 つのオプションがあります： 送信システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コードを送信します（米国の場合は「0」）、そしてプリアンブルを送信しない。ホストシステムと一致する適切なオプションを選択します。

プリアンブル無し (<DATA>)

(00h)

*システム文字 (<SYSTEM CHARACTER> <DATA>)

(01h)

システム文字と国コード

(< COUNTRY CODE> <SYSTEM CHARACTER> <DATA>)

(02h)

UPC-E1 プリアンブル

SSI # 24h

Parameter # 36

プリアンブル文字は UPC シンボルの一部であり、国コードとシステム文字を含みます。UPC-E 1 プリアンブルをホストデバイスに送信するには、次の 3 つのオプションがあります： 送信システムキャラクタのみ、システムキャラクタと国コードを送信します（米国の場合は「0」）、そしてプリアンブルを送信しない。ホストシステムと一致する適切なオプションを選択します。

プリアンブル無し (<DATA>)

(00h)

*システム文字 (<SYSTEM CHARACTER> <DATA>)

(01h)

システム文字と国コード

(< COUNTRY CODE> <SYSTEM CHARACTER> <DATA>)
(02h)

UPC-E を UPC-A に変換

SSI # 25h

Parameter # 37

これを有効にすると、送信前に UPC-E（ゼロが付けられない）デコードデータを UPC-A フォーマットに変換します。変換後、データは UPC-A フォーマットに従い、UPC-A プログラミング選択（プリアンブル、チェックデジットなど）の影響を受けます。

UPC-E のデコードされたデータを変換せずに UPC-E データとして送信するには、これを無効にします。

UPC-E を UPC-A に変換（有効）
(01h)

* UPC-E を UPC-A に変換しない（無効）
(00h)

UPC-E1 を UPC-A に変換

SSI # 26h

Parameter # 38

これを有効にすると、送信前に UPC-E1（ゼロが付けられない）デコードデータを UPC-A フォーマットに変換します。変換後、データは UPC-A フォーマットに従い、UPC-A プログラミング選択（プリアンブル、チェックデジットなど）の影響を受けます。

UPC-E1 のデコードされたデータを変換せずに UPC-E1 データとして送信するには、これを無効にします。

UPC-E1 を UPC-A に変換（有効）
(01h)

* UPC-E1 を UPC-A に変換しない（無効）
(00h)

EAN-8/JAN-8 ゼロ拡張

SSI # 27h

Parameter # 39

デコードされた EAN-8 シンボルの先に 5 つのゼロを追加して、EAN-13 シンボルと互換性のあるフォーマットにするには、このパラメータを有効にします。

これを無効にすると、EAN-8 シンボルをそのまま送信します。

EAN/JAN ゼロ拡張有効
(01h)

* EAN/JAN ゼロ拡張無効
(00h)

UCC クーポン拡張コード

SSI # 55h

Parameter # 85

このパラメータを有効にすると、数字「5」で始まる UPC-A バーコード、数字「99」で始まる EAN-13 バーコード、および UPC-A / GS1-128 クーポンコードをデコードします。すべてのタイプのクーポンコードをスキャンするには、UPCA、EAN-13、および GS1-128 を有効にする必要があります。

UCC クーポン拡張コード有効

(01h)

*UCC クーポン拡張コード無効

(00h)

クーポンレポート

SSI # F1h DAh

Parameter # 730

従来のクーポンシンボル（旧クーポンシンボル）は、UPC / EAN と Code128 の2つのバーコードで構成されています。新しいクーポンシンボルは、単一の Databar 拡張バーコードで構成されています。新しいクーポンフォーマットは、購入金額（最大 999.99 ドル）のオプションを持ち、2つ目の購入要件などの複雑な割引をサポートします。

UPC / EAN と Databar 拡張の両方のタイプのバーコードを含む暫定クーポンシンボルも存在します。このフォーマットは、新しいクーポンシンボルに含まれる追加情報を認識または使用していない小売業者と、新しいクーポンシンボルを処理できる小売業者の両方に対応します。

- **旧クーポンシンボル** -古いクーポンシンボルをスキャンすると UPC とコード 128 の両方がレポートされ、暫定クーポンシンボルをスキャンすると UPC がレポートされ、新しいクーポンシンボルをスキャンすると何も表示されません（デコードなし）。
- **新クーポンシンボル** -古いクーポンシンボルをスキャンすると、UPC またはコード 128 のいずれかがレポートされ、暫定クーポンシンボルまたは新しいクーポンシンボルをスキャンすると、Databar 拡張がレポートされます。
- **両方のクーポンフォーマット** -古いクーポンシンボルをスキャンすると、UPC とコード 128 の両方がレポートされ、暫定クーポンシンボルまたは新しいクーポンシンボルをスキャンすると Databar 拡張がレポートされます。

ノート上記の動作は、UCC クーポン拡張コード（パラメータ # 55）が有効な場合に適用されます。無効にすると（デフォルト）、新しいクーポン（8110 から始まる GS1 Databar 拡張）が通常の GS1 拡張（RSS）バーコードとしてデコードされます。

旧クーポンシンボル

(00h)

*新クーポンシンボル

(01h)

両方のクーポンフォーマット

(02h)

ISSN EAN

SSI # F1h 69h

Parameter # 617

ISSN EAN を有効または無効にします。

ISSN EAN を有効にする

(01h)

*ISSN EAN を無効にする

(00h)

Code 128

Code 128 有効/無効

SSI # 08h

Parameter # 8

Code 128 を有効または無効にします。

*Code 128 有効

(01h)

Code 128 無効

(00h)

Code 128 の長さをセット

SSI #L1 = D1h, L2 = D2h

Parameter # 209, 210

GS1-128 (旧 UCC/EAN-128)

SSI # 0Eh

Parameter # 14

GS1-128 を有効または無効にします。

*GS1-128 有効

(01h)

GS1-128 無効

(00h)

ISBT 128

SSI # 54h

Parameter # 84

ISBT 128 は、血液バンク業界で使用される Code 128 の変種です。必要に応じて、ホストは ISBT データの連結を実行する必要があります。

*ISBT 128 有効

(01h)

ISBT 128 無効

(00h)

ISBT 連結

SSI # F1h 41h

Parameter # 577

ISBT コードタイプのペアを連結するオプションを選択します:

- **Disable ISBT Concatenation**[ISBT 連結無効]を選択すると、デコードは ISBT コードの

ペアを連結しません。

- **Enable ISBT Concatenation[ISBT 連結有効]**を選択すると、デコードして連結するために二つの ISBT コードが必要です。デコーダは、一つの ISBT シンボルをデコードしません。

- **Autodiscriminate ISBT Concatenation[ISBT 連結自動識別]**を選択すると、デコーダは ISBT コードのペアをすぐにデコードして連結します。単一の ISBT シンボルのみが存在する場合、デコーダは、追加の ISBT シンボルがないことを確認するためにデータを送信する前に、ISBT Concatenation Redundancy[連結冗長性] を介して設定された回数だけシンボルを復号化しなければなりません。

* **ISBT 連結無効**
(00h)

ISBT 連結有効
(01h)

ISBT 連結自動識別
(02h)

ISBT テーブルチェック

SSI # F1h 42h

Parameter # 578

ISBT 仕様には、一般的にペアで使用されるいくつかのタイプの ISBT バーコードがリストされています。**ISBT 連結を有効**に設定する場合、**ISBT テーブルのチェック**を有効にして、このテーブルにあるペアのみを連結します。他の種類の ISBT コードは連結されません。

* **ISBT テーブルチェック有効**
(01h)

ISBT テーブルチェック無効
(00h)

Code 39

Code 39 有効/無効

SSI # 00h

Parameter # 0

Code 39 を有効または無効にします。

* **Code 39 有効**
(01h)
Code 39 無効
(00h)

Trioptic Code 39 有効/無効

SSI # 0Dh

Parameter # 13

Trioptic Code 39 は、コンピュータテープカートリッジのマーキングに使用されるコード 39 の変種です。 Trioptic Code 39 のシンボルは常に 6 文字です。 Trioptic Code 39 を有効または

無効にします。

Trioptic Code 39 有効
(01h)

***Trioptic Code 39 無効**
(00h)

ノート Trioptic Code 39 と Code 39 フル ASCII を同時に有効にすることはできません。

Code 39 を Code 32 に変換

SSI # 56h

Parameter # 86

Code 32 は、イタリアの製薬業界で使用されている Code 39 の変種です。

ノート Code 39 は、このパラメータを有効にする必要があります。

Code 39 を Code 32 に変換有効
(01h)

***Code 39 を Code 32 に変換無効**
(00h)

Code 32 プリフィックス

SSI # E7h

Parameter # 231

すべての Code 32 バーコードにプリフィックス文字“A”の追加を有効または無効にします。

ノート このパラメータを働かせるには、Code 39 から Code 32 へ変換を有効にする必要があります。

Code 32 プリフィックス有効
(01h)

***Code 32 プリフィックス無効**
(00h)

Code 39 の長さをセット

SSI # L1 = 12h, L2 = 13h

Parameter # 18, 19

Code 39 チェックデジット検証

SSI # 30h

Parameter # 48

この機能を有効にすると、コード 39 のすべてのシンボルの整合性をチェックし、データが指定されたチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。モジュール 43 チェックデジットを含むコード 39 シンボルのみがデコードされます。コード 39 シンボルにモジュール 43 チェックデジットが含まれている場合は、この機能を有効にします。

Code 39 チェックデジット有効
(01h)

***Code 39 チェックデジット無効**
(00h)

Code 39 チェックデジット送信

SSI # 2Bh

Parameter # 43

チェックデジット付き、または無しで Code 39 データを送信します。

Code 39 チェックデジット送信 (有効)
(01h)

***Code 39 チェックデジット送信しない (無効)**
(00h)

ノート Code 39 チェックデジット検証は、このパラメータを有効にする必要があります。

Code 39 フル ASCII 変換

SSI # 11h

Parameter # 17

Code 39 フル ASCII は、ASCII の完全な文字セットをエンコードするために文字をペアとする Code 39 の変種です。

Code 39 フル ASCII 有効
(01h)

***Code 39 フル ASCII 無効**
(00h)

ノート Trioptic Code 39 と Code 39 フル ASCII を同時に有効にすることはできません。

Code 93

Code 93 有効/無効

SSI # 09h

Parameter # 9

Code 93 を有効または無効にします。

Code 93 有効
(01h)

***Code 93 無効**
(00h)

Code 93 の長さをセット

SSI # L1 = 1Ah, L2 = 1Bh

Parameter # 26, 27

Code 11

Code 11

SSI # 0Ah

Parameter # 10

Code 11 を有効または無効にします。

Code 11 有効
(01h)

***Code 11 無効**
(00h)

Code 11 の長さをセット

SSI # L1 = 1Ch, L2 = 1Dh

Parameter # 28, 29

Code 11 チェックデジット検証

SSI # 34h

Parameter # 52

この機能により、デコードはすべての Code 11 シンボルの完全性をチェックして、データが指定されたチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認できます。

これにより、デコードされた Code 11 バーコードのチェックデジットのメカニズムを選択します。オプションは、1 つのチェックデジットのチェック、2 つのチェックデジットをチェック、あるいはその機能を無効にしたりします。

***無効**
(00h)

1 チェックデジット
(01h)

2 チェックデジット
(02h)

Code 11 チェックデジット送信

SSI # 2Fh

Parameter # 47

この機能は、Code 11 チェックデジットを送信するかどうかを選択します。

Code 11 チェックデジット送信 (有効)
(01h)

***Code 11 チェックデジット送信しない (無効)**

(00h)

ノート Code 11 チェックデジット検証は、このパラメータを有効にする必要があります。

Interleaved 2 of 5 (ITF)

Interleaved 2 of 5 有効/無効

SSI # 06h

Parameter # 6

Interleaved 2 of 5 を有効または無効にします。

Interleaved 2 of 5 有効

(01h)

*Interleaved 2 of 5 無効

(00h)

Interleaved 2 of 5 の長さをセット

SSI # L1 = 16h, L2 = 17h

Parameter # 22, 23

I 2 of 5 チェックデジット検証

SSI # 31h

Parameter #

指定された Uniform Symbology Specification (USS) または Optical Product Code Council (OPCC) チェックデジットアルゴリズムのいずれかに準拠していることを確認するためにこの機能を有効にして、I 2 of 5 シンボルの完全性をチェックします。

*無効

(00h)

USS チェックデジット

(01h)

OPCC チェックデジット

(02h)

I 2 of 5 チェックデジット送信

SSI # 2Ch

Parameter #

チェックデジット付き、または無し、で I 2 of 5 データを送信します。

I 2 of 5 チェックデジット送信 (有効)

(01h)

*I 2 of 5 チェックデジット送信しない (無効)

(00h)

I 2 of 5 を EAN-13 に変換

SSI # 52h

Parameter #

14-文字 I 2 of 5 コードを EAN-13 に変換して、EAN-13 としてホストに送信するためにこのパラメータを有効にします。

これを行うには、I 2 of 5 コードが有効で、そしてコードは先頭がゼロで、有効な EAN-13 チェックデジットを持つ必要があります。

I 2 of 5 を EAN-13 に変換(有効)
(01h)

***I 2 of 5 を EAN-13 に変換しない (無効)**
(00h)

I 2 of 5 セキュリティレベル

SSI # 461h

Parameter #

Interleaved 2 of 5 バーコードは、特に **Any Length**(長さが可変) が Interleaved 2 of 5 バーコードに設定されている場合、シンボルの性質により誤ったデコードをすることがあります。デコーダは Interleaved 2 of 5 バーコードに対して 4 レベルのデコードセキュリティを提供します。セキュリティとデコーダの性能には逆の関係があります。セキュリティレベルを上げると、スキャンの性能が低下する可能性があるため、必要なセキュリティレベルのみを選択してください。

- **I 2 of 5 Security Level 0:** この設定では、デコーダが最も読み取り性能の高い状態で動作し、ほとんどの仕様のバーコードのデコードに十分なセキュリティを提供します。

- **I 2 of 5 Security Level 1:** バーコードは正常に 2 回読み取られ、デコードする前に一定のセキュリティ要件が満たされていなければなりません。このデフォルト設定では、ほとんどのデコード誤りが排除されます。

- **I 2 of 5 Security Level 2: セキュリティレベル 1** がデコード誤りを排除できない場合、バーコードに対してより高いセキュリティ要件を備えたこのオプションを選択します。

- **I 2 of 5 Security Level 3: セキュリティレベル 2** を選択したにもかかわらずデコード誤りが発生した場合は、このセキュリティレベルを選択します。最高のセキュリティ要件が適用されます。バーコードは、デコードされる前に 3 回正常に読み取られなければなりません。

ノートこのオプションを選択するのは、仕様外のバーコードのデコード誤りに対応するための極端な措置です。このセキュリティレベルを選択すると、デコーダの性能が著しく損なわれます。このセキュリティレベルが必要な場合は、バーコードの品質を向上させることをお勧めします。

I 2 of 5 Security Level 0
(00h)

***I 2 of 5 Security Level 1**
(01h)

**I 2 of 5 Security Level 2
(02h)**

**I 2 of 5 Security Level 3
(03h)**

Discrete 2 of 5 (DTF)

Discrete 2 of 5 有効/無効

SSI # 05h

Parameter # 5

Discrete 2 of 5 を有効または無効にします。

**Discrete 2 of 5 有効
(01h)**

*** Discrete 2 of 5 無効
(00h)**

Discrete 2 of 5 の長さをセット

SSI # L1 = 14h, L2 = 15h

Parameter # L1 = 20, L2 = 21

Codabar (NW - 7)

Codabar 有効/無効

SSI # 07h

Parameter # 7

Codabar を有効または無効にします。

**Codabar 有効
(01h)**

*** DCodabar 無効
(00h)**

Codabar の長さをセット

SSI # L1 = 18h, L2 = 19h

Parameter # L1 = 24, L2 = 25

CLSI 編集

SSI # 36h

Parameter # 54

このパラメータを有効にすると、開始文字と終了文字を取り除き、14 文字の Codabar シンボルの 1 文字目、5 文字目、10 文字目の後にスペースを挿入します。ホストシステムでこのデータ形式が必要な場合は、この機能を有効にします。

CLSI 編集有効
(01h)

***CLSI 編集無効**
(00h)

NOTIS Editing

SSI # 37h

Parameter # 55

このパラメータを有効にすると、デコードされた Codabar シンボルから開始文字と終了文字を取り除くことができます。ホストシステムでこのデータ形式が必要な場合は、この機能を有効にします。

ノート シンボル長は、開始および終了文字を含みません。

NOTIS Editing 有効
(01h)

***NOTIS Editing 無効**
(00h)

Codabar の開始/終了文字の大文字または小文字を検出

SSI # F2h 57h

Parameter # 855

Codabar 開始/終了文字の大文字または小文字のどちらを検出するかを選択します。

小文字
(01h)

***大文字**
(00h)

MSI

MSI 有効/無効

SSI # 0Bh

Parameter # 11

MSI を有効または無効にします。

MSI 有効
(01h)

***MSI 無効**
(00h)

MSI の長さをセット

SSI # L1 = 1Eh, L2 = 1Fh

Parameter # L1 = 30, L2 = 31

MSI チェックデジット

SSI # 32h

Parameter # 50

MSI シンボルでは、1 つのチェックデジットは必須であり、常にリーダーによって確認されます。2 番目のチェックデジットはオプションです。 MSI コードに 2 つのチェックデジットが含まれている場合は、**2 MSI チェックデジット**バーコードをスキャンして、2 つ目のチェックデジットの検証を有効にします。

***1 MSI チェックデジット**

(00h)

2 MSI チェックデジット

(01h)

MSI チェックデジット送信

SSI # 2Eh

Parameter # 46

チェック桁の有無にかかわらず MSI データを送信します。

MSI チェックデジット送信 (有効)

(01h)

***D MSI チェックデジット送信しない(無効)**

(00h)

MSI チェックデジットアルゴリズム

SSI # 33h

Parameter # 51

第二の MSI チェックデジットの検証のために 2 つのアルゴリズムがあります。

MOD 10/MOD 11

(00h)

***MOD 10/MOD 10**

(01h)

Chinese 2 of 5

Chinese 2 of 5 有効/無効

SSI # F0h 98h

Parameter # 408

Chinese 2 of 5 を有効または無効にします。

Chinese 2 of 5 有効
(01h)

*Chinese 2 of 5 無効
(00h)

Matrix 2 of 5

Matrix 2 of 5 有効/無効

SSI # F1h 6Ah

Parameter # 618

Matrix 2 of 5 を有効または無効にします。

Matrix 2 of 5 有効
(01h)

*Matrix 2 of 5 無効
(00h)

Matrix 2 of 5 の長さをセット

SSI # L1 = F1h 6Bh, L2 = F1h 6Ch

Parameter # L1 = 619, L2 = 620

Matrix 2 of 5 チェックデジット

SSI # F1h 6Eh

Parameter # 622

チェックデジットは、データの整合性を検証するために使用されるシンボルの最後の文字です。

Matrix 2 of 5 チェックデジット有効
(01h)

*Matrix 2 of 5 チェックデジット無効
(00h)

Matrix 2 of 5 チェックデジット送信

SSI # F1h 6Fh

Parameter # 623

チェックデジット付きまたはチェックデジット無しで Matrix 2 of 5 データを送信します。

Matrix 2 of 5 チェックデジット送信
(01h)

*Matrix 2 of 5 チェックデジット送信しない
(00h)

Korean 3 of 5

Korean 3 of 5 有効/無効

SSI # F1h 45h

Parameter # 581

Korean 3 of 5 を有効または無効にします。

ノート Korean 3 of 5 の長さは 6 に固定されています。

Korean 3 of 5 有効
(01h)

*Korean 3 of 5 無効
(00h)

1D 反転

SSI # F1h 4Ah

Parameter # 586

このパラメータは、1D 反転デコード設定をセットします。オプションは以下の通り：

- 通常のみ – デコーダは、通常の 1D バーコードのみをデコードします。
- 反転のみ – デコーダは、反転した 1D バーコードのみをデコードします。
- 反転自動検出 – デコーダは、通常及び反転した 1D バーコードをデコードします。

*通常
(00h)
反転のみ
(01h)
反転自動検出
(02h)

郵便バーコード

US Postnet

SSI # 59h

Parameter # 89

US Postnet を有効または無効にします。

US Postnet 有効
(01h)

*US Postnet 無効
(00h)

US Planet

SSI # 5Ah

Parameter # 90

US Planet を有効または無効にします。

US Planet 有効
(01h)

***US Planet 無効**
(00h)

US Postal チェックデジット送信

SSI # 5Fh

Parameter # 95

チェックデジット有りまたは無しで、US Postnet と US Planet の両方を含む US Postal データを送信するかどうかを選択します。

***US Postal チェックデジット送信**
(01h)

US Postal チェックデジット送信しない
(00h)

UK Postal

SSI # 5Bh

Parameter # 91

UK Postal を有効または無効にします。

UK Postal 有効
(01h)

***UK Postal 無効**
(00h)

UK Postal チェックデジット送信

SSI # 60h

Parameter # 96

チェックデジット有りまたは無しで UK Postal データを送信するかどうかを選択します。

***UK Postal チェックデジット送信**
(01h)

UK Postal チェックデジット送信しない
(00h)

日本郵便

SSI # F0h, 22h

Parameter # 290

日本郵便を有効または無効にします。

日本郵便有効
(01h)

* 日本郵便無効
(00h)

オーストラリア郵便

SSI # F0h, 23h

Parameter # 291

オーストラリア郵便を有効または無効にします。

オーストラリア郵便有効
(01h)

* オーストラリア郵便無効
(00h)

オーストラリア郵便フォーマット

SSI # F1h, CEh

Parameter # 718

オーストラリア郵便について以下のフォーマットの一つを選択します。

- **自動識別** (もしくは、スマートモード) - N および C のエンコーディングテーブルを使用して顧客情報フィールドのデコードを試みます。
- **生のフォーマット** - 生のバーパターンを 0 から 3 までの一連の数字で出力します。
- **英数字エンコーディング** - C エンコーディングテーブルを使用して顧客情報フィールドをデコードします。
- **数字エンコーディング** - N エンコーディングテーブルを使用して顧客情報フィールドをデコードします。

ノートこのオプションは、エンコードされたデータ形式がエンコードに使用されるエンコードテーブルを指定していないため、誤ったデコードのリスクを増加させます。

* 自動識別

(00h)

生のフォーマット

(01h)

英数字エンコーディング

(02h)

数字エンコーディング

(03h)

オランダ KIX コード

SSI # F0h, 46h

Parameter # 326

オランダ KIX コードを有効または無効にします。

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail 有効
(01h)
*USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail 無効
(00h)

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail

SSI # F1h 50h

Parameter # 592

USPS 4CB/One Code/Intelligent Mail を有効または無効にします。

オランダ KIX コード有効

(01h)

*オランダ KIX コード無効

(00h)

UPU FICS Postal

SSI # F1h 63h

Parameter # 611

UPU FICS Postal を有効または無効にします。

UPU FICS Postal 有効

(01h)

*UPU FICS Postal 無効

(00h)

GS1 DataBar

SSI # F0h 52h

Parameter # 338

以下のコードタイプを有効または無効にします:

- GS1 DataBar オムニディレクショナル
- GS1 DataBar トランケート
- GS1 DataBar スタック
- GS1 DataBar スタックオムニディレクショナル

* GS1 DataBar 有効

(01h)

GS1 DataBar 無効

(00h)

GS1 DataBar リミテッド

SSI # F0h 53h

Parameter # 339

GS1 DataBar リミテッド有効

(01h)

* GS1 DataBar リミテッド無効

(00h)

GS1 DataBar エクスパンデッド

SSI # F0h 54h

Parameter # 340

以下のコードタイプを有効または無効にします:

- GS1 DataBar エクスパンデッド
- GS1 DataBar エクスパンデッド、スタック

*GS1 DataBar エクスパンデッド有効

(01h)

GS1 DataBar エクスパンデッド無効

(00h)

GS1 DataBar を UPC/EAN に変換

SSI # F0h, 8Dh

Parameter # 397

このパラメータは、コンポジットシンボルの一部としてデコードされない GS1 DataBar および GS1 DataBar Limited シンボルにのみ適用されます。DataBar および DataBar Limited シンボルから先行する '010'を取り除き、最初の数字として一つのゼロをエンコードするためにこれを有効にして、そしてバーコードを EAN-13 としてレポートします。

2つ以上のゼロで始まり6つのゼロではないバーコードの場合、このパラメータは先頭の「0100」を取り除き、バーコードを UPC-A としてレポートします。システム文字および国コードを送信する UPC-A プリアンブルパラメータは、変換されたバーコードに適用されます。

システム文字もチェックデジットも削除できないことに注意してください。

GS1 DataBar を UPC/EAN に変換有効

(01h)

*GS1 DataBar を UPC/EAN に変換無効

(00h)

コンポジット(合成)

コンポジット CC-C

SSI # F0h 55h

Parameter # 341

タイプ CC-C のコンポジットバーコードを有効または無効にします。

CC-C 有効

(01h)

*CC-C 無効

(00h)

コンポジット CC-A/B

SSI # F0h 56h

Parameter # 342 タイプ CC-A/B のコンポジットバーコードを有効または無効にします。

CC-C 有効

ノート このコードを有効にする場合、UPC コンポジットモードもご覧下さい。

CC-A/B 有効

(01h)

*CC-A/B 無効

(00h)

コンポジット TLC-39

SSI # F0h 73h

Parameter # 371 タイプ TLC-39 のコンポジットバーコードを有効または無効にします。

CC-C 有効

TLC39 有効

(01h)

*TLC39 無効

(00h)

UPC コンポジットモード

SSI # F0h 58h

Parameter # 344

コンポジット CC-A/B を有効にする場合は、送信中に UPC シンボルと 2D シンボルを 1 つのシンボルとしてリンクするオプションを選択します：

- 2D シンボルが検出されているかどうかにかかわらず UPC バーコードを送信するには、[UPC リンクしない]を選択します。

- UPC バーコードと 2D 部分を送信するには、[UPC を常にリンク]を選択します。

2D が存在しない場合、UPC バーコードは送信されません。

- [UPC コンポジット自動識別]を選択すると、デコーダは 2D 部分があるかどうかを判断し、UPC と 2D 部分があればそれを送信します。

UPC リンクしない

(00h)

*UPC を常にリンク d

(01h)

UPC コンポジット自動識別

(02h)

コンポジットビープモード

SSI # F0h, 8Eh

Parameter # 398

コンポジットバーコードがデコードされたときのビープ音の数を選択します。

両方がデコードされた後に一つのビープ音

(00h)

*各コードタイプがデコードされたときにビープ音

(01h)

両方がデコードされた後で二つのビープ音

(02h)

UCC/EAN コンボジットコードの GS1-128 エミュレーション

SSI # F0h, ABh

Parameter # 427

このモードを有効または無効にするかどうかを選択します。

UCC/EAN コンボジットモードの GS1-128 エミュレーションモード有効
(01h)

* UCC/EAN コンボジットモードの GS1-128 エミュレーションモード無効
(00h)

2D シンボル

PDF417 有効/無効

SSI # 0Fh

Parameter # 15

PDF417 を有効または無効にします。

* PDF417 有効

(01h)

PDF417 無効

(00h)

MicroPDF417 有効/無効

SSI # E3h

Parameter # 227

MicroPDF417 を有効または無効にします。

MicroPDF417 有効

(01h)

* MicroPDF417 無効

(00h)

Code 128 エミュレーション

SSI # 7Bh

Parameter # 123

特定の MicroPDF417 シンボルのデータを Code 128 として送信するには、このパラメータを有効にします。AIM Code ID

このパラメータが機能するには、文字 (01h) を有効にする必要があります。

これらの MicroPDF417 シンボルを次のプリフィックスのいずれかを付けて送信するには、コード 128 エミュレーションを有効にします:

]C1, 最初の codeword が 903-905 の場合

]C2, 最初の codeword が 908 または 909 の場合

]C0, 最初の codeword が 910 または 911 の場合

これらの MicroPDF417 シンボルを次のプリフィックスのいずれかで送信するには、Code128 エミュレーションを無効にします:

]L3 最初の codeword が 903-905 の場合

]L4, 最初の codeword が 908 または 909 の場合

]L5, 最初の codeword が 910 または 911 の場合

ノート リンクされた MicroPDF codewords 906, 907, 912, 914, と 915 は、サポートされていません。代わりに GS1 コンボジットを使用します。

Code 128 エミュレーション有効
(01h)

***Code 128 エミュレーション無効**
(00h)

Data Matrix

SSI # F0h, 24h

Parameter # 292

Data Matrix を有効または無効にします。

***Data Matrix 有効**
(01h)
Data Matrix 無効
(00h)

Data Matrix インバース(反転)

SSI # F1h 4Ch

Parameter # 588

このパラメータは、Data Matrix インバースデコード設定をセットします。オプションは以下の通りです：

- **通常のみ** - デコードは、通常の Data Matrix バーコードのみをデコードします。
- **インバースのみ** - デコードは、インバース Data Matrix バーコードのみをデコードします。
- **インバース自動検出** - デコードは、通常とインバース Data Matrix バーコードの両方をデコードします。

***通常**
(00h)
インバースのみ
(01h)
インバース自動検出
(02h)

ミラーイメージデコード (Data Matrix のみ)

SSI # F1h 19h

Parameter # 537 ミラーイメージの Data Matrix バーコードのオプションを選択します：

- **常時** - ミラーイメージの Data Matrix バーコードのみをデコードします。
- **なし** - ミラーイメージの Data Matrix バーコードをデコードしません
- **自動** - ミラーおよびミラーではない Data Matrix バーコードの両方をデコードします

なし
(00h)
常時
(01h)
*** 自動**

(02h)

Maxicode

SSI # F0h 26h

Parameter # 294

Maxicode を有効または無効にします。

Maxicode 有効

(01h)

*Maxicode 無効

(00h)

QR Code

SSI # F0h 25h

Parameter # 293

QR Code を有効または無効にします。

*QR Code 有効

(01h)

QR Code 無効

(00h)

QR インバース

SSI # F1h 4Bh

Parameter # 587

このパラメータは、QR インバースデコーダ設定をセットします。オプションは以下の通りです：

- 通常のみ - デコーダは、通常の QR バーコードのみをデコードします。
- インバースのみ - デコーダは、インバース QR バーコードのみをデコードします。
- インバース自動検出 - デコーダは、通常とインバース QR バーコードの両方をデコードします。

*通常

(00h)

インバースのみ

(01h)

インバース自動検出

(02h)

MicroQR

SSI # F1h 3Dh

Parameter # 573

MicroQR を有効または無効にします。

*MicroQR 有効

(01h)

MicroQR 無効

(00h)

Aztec

SSI # F1h 3Eh

Parameter # 574

Aztec を有効または無効にします。

*Aztec 有効

(01h)

Aztec 無効

(00h)

Aztec インバース

SSI # F1h 4Dh

Parameter # 589

このパラメータは、Aztec インバースデコーダの設定をセットします。オプションは以下の通りです:

- **通常のみ** - デコーダは、通常の Aztec バーコードのみをデコードします。
- **インバースのみ** - デコーダは、インバース Aztec バーコードのみをデコードします。
- **インバース自動検出** - デコーダは、通常とインバース Aztec バーコードの両方をデコードします。

通常

(00h)

インバースのみ

(01h)

*インバース自動検出

(02h)

漢信

SSI # F8h 04h 8Fh

Parameter # 1167

Han Xin を有効または無効にします。

Han Xin 有効

(01h)

*Han Xin 無効

(00h)

漢信インバース

SSI # F8h 04h 90h

Parameter # 1168

漢信インバースのデコード設定を選択します:

- **通常のみ** - デコーダは、通常の漢信バーコードのみをデコードします。
- **インバースのみ** - デコーダは、インバース漢信バーコードのみをデコードします。
- **インバース自動検出** - デコーダは、通常とインバース漢信バーコードの両方をデコードします。

*通常

(00h)

インバースのみ

(01h)

インバース自動検出

(02h)

照準の明るさ (SE4500/SE3300/SE4750)

SSI # F1h 9Ch

Parameter # 668

この機能は照準パターンの明るさを設定します。デフォルトは 0 です。これは、照準パターンがカメラ露出の間に常にオンであることを示します。0 以上の値の場合、輝度値の各増分は、照準時間 0.5ms で増えます。設定の範囲は 0~255 です。最大照準時間はフレーム時間によって制限されるため、フレームレートを 60 fps に設定すると推奨される範囲は 0~30 です。

イルミネーションの明るさ

SSI # F1h 9Dh

Parameter # 669

この機能は、LED の出力を変更することによって照明の明るさを設定します。デフォルトは 10 です。これは最大の LED 輝度です。値が 1~10 の場合、LED の輝度は輝度の最低レベルから最高レベルまで変化します。たとえば、イルミネーションの明るさを 6 に設定するには、対応するバーコードをスキャンし、その後に 0 と 6 のバーコードをスキャンします。

LED イルミネーション

SSI # F0h ADh

Parameter # 429

使用する LED イルミネーションのタイプを選択します:

- **内部イルミネーション** - エンジンのイルミネーションを使用します。
 - **外部イルミネーション** - デコードセッション中に ILLUM_EN_OUT 信号を継続的にアサート (True にする) し、エンジンのイルミネーションを使用しません。
 - **内部と外部イルミネーション** - エンジンのイルミネーションを使用し、そしてデコードセッション中に ILLUM_EN_OUT 信号を継続的にアサートします。
 - **内部イルミネーション一致エンジン (SE4500/SE4750 のみ)** - エンジンのイルミネーションと ILLUM_EN_OUT 信号のパルスを各フレームについてエンジンのイルミネーション時間に合わせます。SE3300 と SE4710 はこのオプションをサポートしていないことに注意してください。
 - **内部と外部イルミネーション切り替え (SE4500/SE4750 のみ)** - フレーム切り替えでエンジンのイルミネーションと ILLUM_EN_OUT 信号を使用します。SE3300 と SE4710 はこのオプションをサポートしていないことに注意してください。
- このパラメータは、デコードイルミネーションが有効な場合にのみデコードに適用されます。デコードを無効にするこの LED イルミネーションの設定に関係なく、イルミネーションはそのモードのすべてのイルミネーションをオフにします。

***内部イルミネーション
(00h)**

**外部イルミネーション
(01h)**

**内部と外部イルミネーション
(02h)**

内部イルミネーション一致エンジン

(SE4500/SE4750 Only)
(04h)

内部と外部イルミネーション切り替え
(SE4500/SE4750 Only)
(05h)

デコードイルミネーション

SSI # F0h 2Ah

Parameter # 298

デコードイルミネーション有効を選択すると、デコーダは、デコードを助けるために画像キャプチャごとにイルミネーションをオンにします。デコードイルミネーション無効を選択すると、デコードイルミネーションの使用ができなくなります。イルミネーションを有効にすると、通常、優れた画像が得られます。ターゲットまでの距離が遠くなるほどイルミネーションの有効性が低下します。

ノート プレゼンテーションモードを使用しているときに、**モーションエンハンスメント**の有無にかかわらず、このパラメータを変更することはお勧めしません。

*デコードイルミネーション有効
(01h)

デコードイルミネーション無効
(00h)

デコード照準パターン

SSI # F0h 32h

Parameter # 306

バーコードのキャプチャ中に照準パターンを投影するには「**デコード照準パターン有効**」を選択し、照準パターンをオフにするには「**デコード照準パターン無効**」を選択します。

* デコード照準パターン有効
(02h)

デコード照準パターン無効
(00h)

トリガモード

SSI # 8Ah

Parameter # 138

- **レベル** -トリガイベントは、トリガイベントの終了、有効なデコード、またはデコードセッションタイムアウトが発生するまで、デコード処理をアクティブにします。
- **プレゼンテーションモード** -デコーダがその視野内のオブジェクトを検出すると、デコーダはトリガしてデコードを試みます。オブジェクトの検出範囲は、通常の照明条件では変化しません。これはデコードモードにのみ適用されます。このモードでは、低電力モードにはなりません。
- **ホスト** -ホストコマンドがトリガ信号を出します。デコーダは、実際のトリガプルをレベルトリガオプションとして解釈します。

- **自動照準** -このトリガモードは、デコーダがモーションを感知すると照準パターンをオンにします。トリガプルでデコード処理が有効になります。2 秒間使用しないと、照準パターンは自動的に終了します。

- **イルミネーション付き自動照準** -このトリガモードは、デコーダがモーションを感知すると照準パターンと内部イルミネーション LED を点灯します。トリガプルでデコード処理が有効になります。2 秒間使用しないと、照準パターンと内部イルミネーション LED が自動的に消灯します。

*レベル

(00h)

プレゼンテーションモード

(07h)

ホスト

(08h)

自動照準

(09h)

イルミネーション付き自動照準

(0Ah)

ピックリストモード

SSI # F0h 92h

Parameter # 402

ピックリストモードは、デコーダが照準パターンの中心が当たったバーコードのみをデコードすることを可能にします。次のいずれかのピックリストモードを選択します。:

- **常に無効** - ピックリストモードは常に無効です。
- **常に有効** - ピックリストモードは常に有効です。

ノート ピックリストモードが有効にされた場合、デコード照準パターンが無効になっていてもデコード照準パターンはオンになります。

*常に無効

(00h)

常に有効

(02h)

デコードセッションタイムアウト

SSI # 88h

Parameter # 136

このパラメータは、スキャンの試行中にデコード処理が継続される最大時間を設定します。これは 0.5 秒から 9.9 秒まで 0.1 秒単位でプログラム可能です。デフォルトのタイムアウトは 9.9 秒です。

連続バーコード読み取り

Parameter # F1h 89h

Parameter # 649

「**有効**」を選択すると、トリガイイベントが終了するまでデコード処理が続行されます。各バーコードのデコード時にユーザ指示が発生します。無効を選択すると、有効なデコード時にデコード

処理が終了します。このモードは**プレゼンテーションモード**には適用されません。

ノート この機能でピックリストモードを有効にすることを強くお勧めします。ピックリストモードを無効にすると、デコーダの視野に複数のバーコードがある場合、誤ってデコードされることがあります。

*** 連続バーコード読み取り無効**

(00h)

連続バーコード読み取り有効

(01h)

低照度モーション検出アシスト

SSI # F2h 2Ah

Parameter # 810

プレゼンテーションモードではこの機能により、照準または低い光源を使用して暗い照明環境での動き検出が可能になり、低い光源を提供することで動きの検出を支援します。

ノート このパラメータが有効になっていて、デコードイルミネーションが無効になっている場合は、このパラメータが優先されます。

デコーダがレーザー照準を備える SE4500 または SE4750 に接続されている場合、**低照度モーション検出用の照準ドット**はサポートされません。

*** 低照度モーション検出アシスト無効**

(00h)

低照度モーション検出アシストの照準ドット有効

(01h)

低照度モーション検出アシストの暗い照明有効

(02h)

プレゼンテーションモード表示フィールド

SSI # F1h 61h

Parameter # 609

プレゼンテーションモードでは、デコーダは照準パターンの中心付近の領域のバーコードを検索します。

検索時間を短縮するために、照準パターンの周りのより小さな領域のバーコードを検索するには、**狭い視野**を選択するか、またはより広い領域を検索するには**全視野**を選択します。

狭い視野

(00h)

*** 中程度の視野**

(01h)

全視野

(02h)

ファジー 1D 処理

SSI # F1h 02h

Parameter # 514

このオプションは、デフォルトで有効になっており、損傷したシンボルや品質の低いシンボルを含む 1D バーコードのデコード性能を最適化します。これを無効にするには、2D バーコードをデコードするときやデコードを検出しないときに時間がかかる場合にのみ使用します。

***ファジー 1D 処理有効**

(01h)

ファジー 1D 処理無効

(00h)

ミラーイメージ

SSI # F1h 70h

Parameter # 624

これを有効にすると、ミラーを介して見た場合と同様に、イメージを逆にスキャンしたり、ミラーリングしたりできます。このモードは、ミラーによるスキャンと逆のデコードをしないシンボルの使用を必要とするアプリケーションに有効です。

スナップショット、ビデオ、またはビデオファインダモードを使用しているときにこのモードを有効にすると、イメージがミラー化されたイメージとして送信されます。

***ミラーイメージ無効**

(00h)

ミラーイメージ有効

(01h)

モバイルフォン/ディスプレイモード

SSI # F1h CCh

Parameter # 716

このモードでは、携帯電話や液晶ディスプレイに表示されるバーコードの読み取り性能が向上します。

***モバイルフォン/ディスプレイモード無効**

(00h)

モバイルフォン/ディスプレイモード有効

(03h)

コード ID 文字送信

SSI # 2Dh

Parameter # 45

コード ID 文字は、スキャンされたバーコードの種類を識別します。これは、複数のコードタイプをデコードする場合に便利です。すでに選択されている任意の 1 文字のプリフィックスに加えて、コード ID 文字がプリフィックスとデコードされたデータの間に挿入されます。

シンボルコード ID 文字

(02h)

AIM コード ID 文字

(01h)

***なし**

(00h)

UPC-A 2 桁追加

SSI # FA B9h

Parameter # 3001

UPC-A 2 桁追加を有効または無効にします。

UPC-A 2 桁追加有効

(01h)

***UPC-A 2 桁追加無効**

(00h)

UPC-A 5 桁追加

SSI # FA BAh

Parameter # 3002

UPC-A 5 桁追加を有効または無効にします。

UPC-A 5 桁追加有効

(01h)

***UPC-A 5 桁追加無効**

(00h)

UPC-A 追加必要

SSI # FA BBh

Parameter # 3003

UPC-A 追加必要を有効または無効にします。

UPC-A 追加必要有効

(01h)

***UPC-A 追加必要無効**

(00h)

UPC-A 追加セパレーター

SSI # FA BCh

Parameter # 3004

UPC-A 追加のセパレーターを有効または無効にします。

UPC-A 追加セパレーター有効

(01h)

***UPC-A 追加セパレーター無効**

(00h)

UPC-E0 2 桁追加

SSI # FA BDh

Parameter # 3005

UPC-E0 2 桁追加を有効または無効にします。

UPC-E0 2 桁追加有効

(01h)

***UPC-E0 2 桁追加無効
(00h)**

UPC-E0 5 桁追加

SSI # FA BEh

Parameter # 3006

UPC-E0 5 桁追加を有効または無効にします。

**UPC-E0 5 桁追加有効
(01h)**

***UPC-E0 5 桁追加無効
(00h)**

UPC-E0 追加必要

SSI # FA BFh

Parameter # 3007

UPC-E0 追加必要を有効または無効にします。

**UPC-E0 追加必要有効
(01h)**

***UPC-E0 追加必要無効
(00h)**

UPC-E0 追加セパレーター

SSI # FA C0h

Parameter # 3008

UPC-E0 追加セパレーターを有効または無効にします。

**UPC-E0 追加セパレーター有効
(01h)**

***UPC-E0 追加セパレーター無効
(00h)**

EAN-8 2 桁追加

SSI # FA C1h

Parameter # 3009

EAN-8 2 桁追加を有効または無効にします。

**EAN-8 2 桁追加有効
(01h)**

***EAN-8 2 桁追加無効
(00h)**

EAN-8 5 Digit Addenda

SSI # FA C2h

Parameter # 3010

EAN-8 5 桁追加を有効または無効にします。

**EAN-8 5 桁追加有効
(01h)**

***EAN-8 5 桁追加無効**

(00h)

EAN-8 追加必要

SSI # FA C3h

Parameter # 3011

EAN-8 追加必要を有効または無効にします。

EAN-8 追加必要有効

(01h)

***EAN-8 追加必要無効**

(00h)

EAN-8 追加セパレーター

SSI # FA C4h

Parameter # 3012

EAN-8 追加セパレーターを有効または無効にします。

EAN-8 追加セパレーター有効

(01h)

***EAN-8 追加セパレーター無効**

(00h)

EAN-13 2 Digit Addenda

SSI # FA C5h

Parameter # 3013

EAN-13 2 桁追加を有効または無効にします。

EAN-13 2 桁追加有効

(01h)

***EAN-13 2 桁追加無効**

(00h)

EAN-13 5 Digit Addenda

SSI # FA C6h

Parameter # 3014

EAN-13 5 桁追加を有効または無効にします。

EAN-13 5 桁追加有効

(01h)

***EAN-13 5 桁追加無効**

(00h)

EAN-13 追加必要

SSI # FA C7h

Parameter # 3015

EAN-13 追加必要を有効または無効にします。

EAN-13 追加必要有効

(01h)

***EAN-13 追加必要無効**

(00h)

EAN-13 追加セパレーター

SSI # FA C8h

Parameter # 3016

EAN-13 追加セパレーターを有効または無効にします。

EAN-13 追加セパレーター有効

(01h)

***EAN-13 追加セパレーター無効**

(00h)

EAN-8 チェックデジット送信

SSI # FA C9h

Parameter # 3017

EAN-8 チェックデジット送信を有効または無効にします。

***EAN-8 チェックデジット送信有効**

(01h)

EAN-8 チェックデジット送信無効

(00h)

EAN-13 Transmit Check Digit

SSI # FA CAh

Parameter # 3018

EAN-13 チェックデジット送信を有効または無効にします。

***EAN-13 チェックデジット送信有効**

(01h)

EAN-13 チェックデジット送信無効

(00h)

Dot Code

SSI # FA CBh

Parameter # 3019

Dot Code を有効または無効にします。

***Dot Code 有効**

(01h)

Dot Code 無効

(00h)

OCR

SSI # FA CCh

Parameter # 3020

OCR を有効または無効にします。

OCR 有効

(01h)

***OCR 無効**

(00h)

OCR モード

SSI # FA CDh

Parameter # 3021

OCR モードを選択します。

Enable Dot Code

(01h)

***Disable Dot Code**

(00h)

OCR テンプレート

SSI # FA CEh

Parameter # 3022

OCR テンプレートを選択します。

Enable Dot Code

(01h)

***Disable Dot Code**

(00h)

UpperLeftWindowX

SSI # FA D1h

Parameter # 3025

デコードウィンドウの左上隅の X 軸を設定します。

注: 効果を得るには、この値を UpperLeft_X_Min (0) と UpperLeft_X_Max (830) の間に設定する必要があり、LowerRightWindowX より大きくすることはできません。

UpperLeftWindowY

SSI # FA D2h

Parameter # 3026

デコードウィンドウの左上隅の Y 軸を設定します。

注: 効果を得るには、この値を UpperLeft_Y_Min (0) と UpperLeft_Y_Max (638) の間に設定する必要があり、LowerRightWindowY より大きくすることはできません。

LowerRightWindowX

SSI # FA D3h

Parameter # 3027

デコードウィンドウの右下隅の X 軸を設定します。

注: 効果を得るには、この値を LowerRight_X_Min (1) と LowerRight_X_Max (831) の間に設定する必要があり、UpperLeftWindowX より小さくすることはできません。

LowerRightWindowY

SSI # FA D4h

Parameter # 3028

デコードウィンドウの右下隅の Y 軸を設定します。

注: 効果を得るには、この値を LowerRight_Y_Min (1) と LowerRight_Y_Max (639) の間に設定する必要があり、UpperLeftWindowY より小さくすることはできません。

更新履歴

バージョン	更新内容
V2.6.3	シェークスキャン API を追加
V2.6.4	全シンボル無効 API を追加 NFC 有効/無効 API を追加 NFC 出力順序 API を追加 NFC イグノアレート API を追加 送信設定 API をアップデート
V2.6.8	第 1 章の図をアップデート OS でどのようにトリガが動作するかをアップデート API が動作する OS についてのノートを追加 文字間遅延 API をアップデート スキャンしたデータを受信する例を追加 データ編集 API の挿入ルールと例を追加
V2.6.9	スキャンしたデータを受信する例をアップデート
V2.7.0	すべてのパラメータと設定をリストする付録 A を追加
V2.7.1	セクション 1.3 に、データをバイトとして受信することについての情報を追加
V2.7.2	セクション 1.24 で、PA720 2D スキャナの EXTENT の代わりに EXT というエラーを修正
V2.7.3	Scan2Key 出力方法の API を追加
V2.7.5	アップデートされた databyte について databytelength を追加
V2.7.6	サウンド周波数 API を追加 サウンド時間 API を追加 データ受信のintent設定アクション API を追加 データ受信 APU のintentエクストラセットを追加 コード ID テーブル追加 AIM ID テーブル追加 コマンドテーブル追加 コマンド情報に PA760 のコマンドを追加
V2.7.7	外部 USS の説明を追加 コード ID テーブルとコマンドテーブルをアップデート
V2.7.8	セクション 3.1 の説明誤りを修正
V2.8	PA760 の USS を追加
V2.8.1	1.9 追加パラメータ不要 1.30 サンプルコードエラー修正
V2.8.2	“ソフトウェアスキャンのトリガ”を 1.3 に追加
V2.8.4	1.28 タイプ 4 説明追加 サンプル 2 コード追加 パラメータ更新 P111 追加
V2.8.5	1.5 – スキャンしたデータを受信 – “デバイスオプション”参照を追加 1.28 – “詳細については、9.5 を参照して下さい。”を追加。

	9.1 - “V”を追加。これは“サポートされているデバイス”でオプションが見えることを意味します。
V2.8.6	1.5 - <u>デバイスオプションをセット</u> の参照エラーを訂正 9 - AIM ID テーブル削除 9.3 - コマンド情報セクションの不要な表を削除

